

# 子供たちに必要な資質・能力と学校が果たす役割／ 全ての子供たちの可能性を引き出す学びの実現について (関連資料)

## 資料 6

令和4年10月17日 中央教育審議会初等中等教育分科会  
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた  
学校教育の在り方に関する特別部会  
義務教育の在り方に関するワーキンググループ 第1回

## 1. 義務教育の意義

### 1) 子供たちに必要な資質・能力と学校が果たす役割

- － 令和答申で掲げられた、急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力を前提としつつ、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる子供たちに必要な資質・能力の育成において学校が果たす役割とは何か。
- － その際、学校生活全般を通じ、知・徳・体を一体として育成する日本型学校教育ならではの学びの視点を踏まえ、どのような整理が可能か。

### 2) 全ての子供たちの可能性を引き出す学びの実現

- － 不登校児童生徒や特別な支援を必要とする子供、特異な才能のある子供を含め、全ての子供たちの可能性を引き出す学びの実現について、どのように考えるべきか。

# 育成すべき資質・能力の三つの柱



学習する子供の視点に立ち、育成を目指す資質・能力の要素を三つの柱で整理。

学びに向かう力，人間性等

どのように社会・世界と関わり，  
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を  
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか  
何ができるか

知識及び技能

理解していること・できる  
ことをどう使うか

思考力，判断力，表現力等

【参考】学校教育法第30条第2項

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

## 子供たちに求められる資質・能力（令和答申抜粋）



次代を切り拓く子供たちに求められる資質・能力としては、**文章の意味を正確に理解する読解力、教科等固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力、対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力**などが挙げられた。



また、**豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやり、対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力、困難を乗り越え、ものごとを成し遂げる力、公共の精神**の育成等を図るとともに、子供の頃から各教育段階に応じて**体力の向上、健康の確保**を図ることなどは、どのような時代であっても変わらず重要である。



国際的な動向をみると、（略）自然環境や資源の有限性、貧困、イノベーションなど、**地域や地球規模の諸課題について、子供一人一人が自らの課題として考え、持続可能な社会づくりにつなげていく力**を育むことが求められている。



また、経済協力開発機構（OECD）では子供たちが2030年以降も活躍するために必要な資質・能力について検討を行い、令和元（2019）年5月に“Learning Compass 2030”を発表しているが、この中で子供たちが**ウェルビーイング（Well-being）を実現していくために自ら主体的に目標を設定し、振り返りながら、責任ある行動がとれる力**を身に付けることの重要性が指摘されている。

## 学校教育の意義（令和答申抜粋）



日本の学校教育はこれまで、学習機会と学力を保障するという役割のみならず、**全人的な発達・成長を保障する役割**や、人と安全・安心につながるることができる**居場所・セーフティネット**として**身体的、精神的な健康を保障するという福祉的な役割**も担っていることが再認識された。

特に、全人格的な発達・成長の保障、居場所・セーフティネットとしての福祉的な役割は、**日本型学校教育の強み**であることに留意する必要がある。



日本型学校教育が、世界に誇るべき成果を挙げてくることができたのは、子供たちの学びに対する意欲や関心、学習習慣等によるものだけでなく、**子供のためであればと頑張る教師の献身的な努力**によるものである。

教育は人なりと言われるように、我が国の将来を担う子供たちの教育は教師にかかっている。

しかしながら、学校の役割が過度に拡大していくとともに、直面する様々な課題に対応するため、教師は教育に携わる喜びを持ちつつも疲弊しており、**国において抜本的な対応を行うことなく日本型学校教育を維持していくことは困難**であると言わざるを得ない。



学校は、**すべての子供たちが安心して楽しく通える魅力ある環境であることや、これまで以上に福祉的な役割や子供たちの居場所としての機能を担うことが求められている**。家庭の社会経済的な背景や、障害の状態や特性及び心身の発達の段階、学習や生活の基盤となる日本語の能力、一人一人のキャリア形成など、**子供の発達や学習を取り巻く個別の教育的ニーズを把握し、様々な課題を乗り越え、一人一人の可能性を伸ばしていくことが課題**となっている。

## 学校教育の意義（令和答申抜粋）



学校の臨時休業中、子供たちは、学校や教師からの指示・発信がないと、「何をして良いか分からず」学びを止めてしまうという実態が見られたことから、**これまでの学校教育では、自立した学習者を十分育てられていなかったのではないか**という指摘もある。



学習指導要領ではこれまで、「個人差に留意して指導し、それぞれの児童（生徒）の個性や能力をできるだけ伸ばすようにすること」（昭和33（1958）年学習指導要領）、「個性を生かす教育の充実」（平成元（1989）年学習指導要領等）等の規定がなされてきた。

その一方で、**学校では「みんなで同じことを、同じように」を過度に要求する面が見られ、学校生活においても「同調圧力」を感じる子供が増えていったという指摘もある**。社会の多様化が進み、画一的・同調主義的な学校文化が顕在化しやすくなった面もあるが、このことが結果としていじめなどの問題や生きづらさをもたらし、非合理的な精神論や努力主義、詰め込み教育等との間で負の循環を生じかねないということや、保護者や教師も同調圧力の下にあるという指摘もある。



学校に十分な人的配置を実現し、1人1台端末や先端技術を活用しつつ、（略）個別最適な学びを実現しながら、学校の多様性と包摂性を高めることが必要である。その際、**現状の学校教育における個の確立と異質な他者との対話を促すことに弱さがあるとの指摘も踏まえ、一人一人の内的なニーズや自発性に応じた多様化を軸にした学校文化となり、子供たちの個性が生きるよう、個別化と協働化を適切に組み合わせた学習を実施していくべき**である。

# 18歳の意識調査

自身と社会の関わりについて、  
どう思うか

全体的に低いものの、社会貢献意欲は比較的高い

- ✓ 自分は大人だと思う
- ✓ 自分は責任がある社会の一員だと思う
- ✓ 自分の行動で、国や社会を変えられると思う
- ✓ 国や社会に役立つことをしたいと思う
- ✓ 慈善活動のために寄付をしたい
- ✓ ボランティア活動に参加したい

6位  
/6ヶ国中

Q 以下の項目に同意しますか。(各国n=1000)

※「はい」回答率を掲載

| (単位: %) | 自分は大人だ<br>と思う | 自分は責任があ<br>る社会の一員だ<br>と思う | 自分の行動で、<br>国や社会を<br>変えられると思<br>う | 国や社会に役立<br>つことをしたい<br>と思う | 慈善活動のため<br>に寄付をしたい | ボランティア活<br>動に参加したい |
|---------|---------------|---------------------------|----------------------------------|---------------------------|--------------------|--------------------|
| 日本      | 27.3 6位       | 48.4 6位                   | 26.9 6位                          | 61.7 6位                   | 36.2 6位            | 49.7 6位            |
| アメリカ    | 85.7          | 77.1                      | 58.5                             | 73.0                      | 66.7               | 70.4               |
| イギリス    | 85.9 1位       | 79.9                      | 50.6                             | 71.2                      | 69.5               | 64.2               |
| 中国      | 71.0          | 77.1                      | 70.9                             | 82.1                      | 78.9               | 85.3 1位            |
| 韓国      | 46.7          | 65.7                      | 61.5                             | 75.2                      | 62.4               | 70.7               |
| インド     | 83.7          | 82.8 1位                   | 78.9 1位                          | 92.6 1位                   | 83.7 1位            | 78.1               |

自国で暮らす大人にとってどの  
程度重要だと思うか？

個性を発揮すること、リーダーシップを発揮することが社会では評価されないのでは  
ないか、という認識を持っている可能性

- 社会の伝統やルールを順守する 3位
- 前例にとらわれず、新しく創造的である 4位
- 他人との衝突を避け、調和を重視する 4位
- 他人との違いを恐れず、個性を発揮する 6位
- リーダーシップを発揮して他者を率いる 5位
- リーダーに従い、リーダーを適切に支援する 4位
- 地域の人間関係やコミュニティを大切にす 4位
- 地域や国境を越えてグローバルに能力を発揮する 3位
- 人種、性別、性的指向、障害などの多様性を理解し少数者を尊重する 3位

Q 以下の項目は、自国で暮らす大人にとって、どの程度重要な資質だと思いますか。(各国n=1000)

※各回答ごとに以下の値をあてはめ、平均値を算出

「0%：重要でない」=0点/「20%」=20点/「40%」=40点/「60%」=60点/「80%」=80点/「100%：重要」=100点

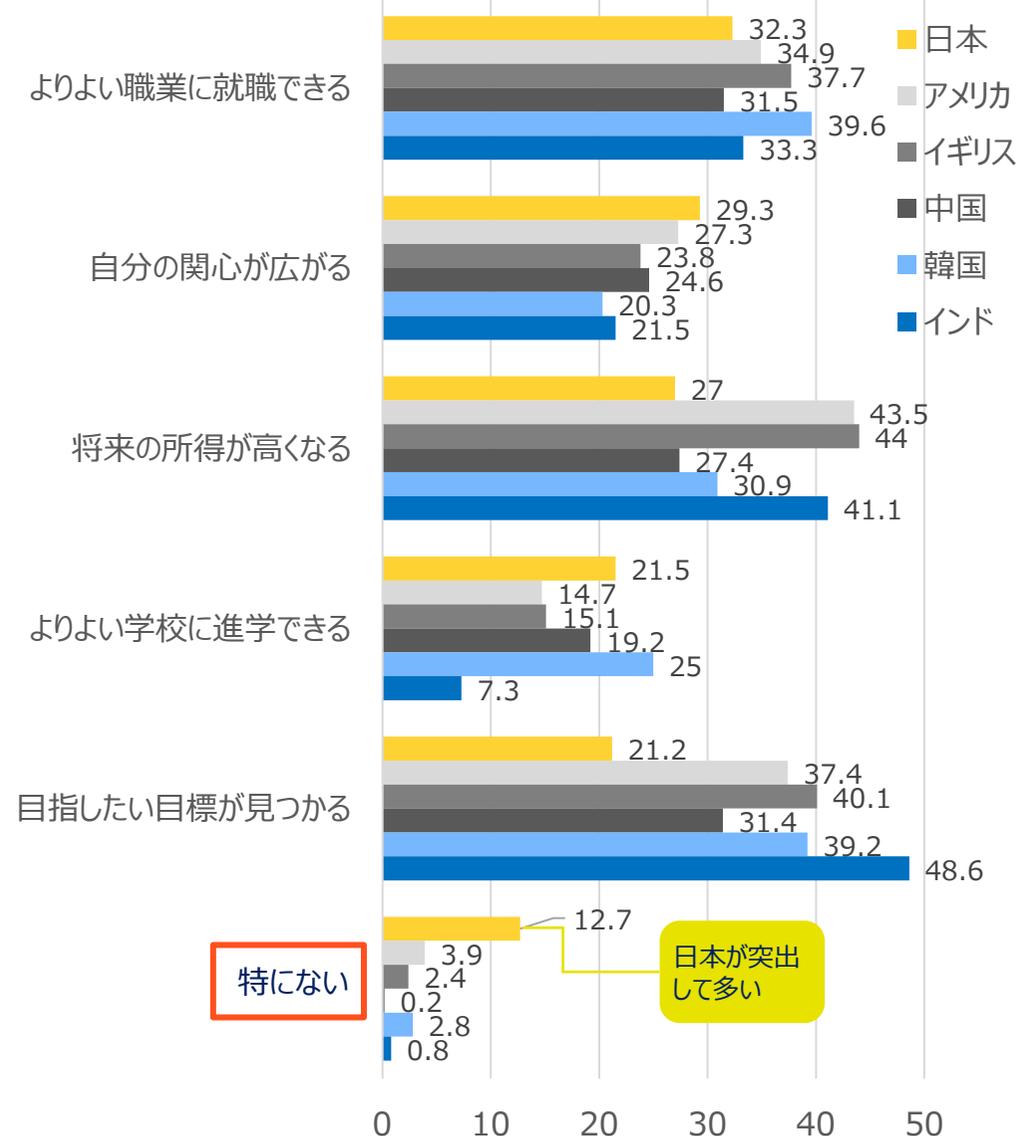
| (単位: 点) | 社会の伝統や<br>ルールを順守する | 前例にとらわれ<br>ず、新しく創造的<br>である | 他人との衝突を<br>避け、調和を<br>重視する | 他人との違いを恐<br>れず、個性を<br>発揮する | リーダーシップを<br>発揮して他者を<br>率いる | リーダーに従い、<br>リーダーを適切に<br>支援する | 地域の人間関係<br>やコミュニティを大<br>切にする | 地域や国境を越<br>えてグローバルに<br>能力を発揮する | 人種、性別、性的<br>指向、障害などの<br>多様性を理解し<br>少数者を尊重する |
|---------|--------------------|----------------------------|---------------------------|----------------------------|----------------------------|------------------------------|------------------------------|--------------------------------|---|
| 日本      | 60.2 3位            | 60.3 4位                    | 61.1 4位                   | 59.4 6位                    | 56.6 5位                    | 58.4 4位                      | 60.0 4位                      | 58.9 3位                        | 67.2 3位                                     |
| アメリカ    | 49.1               | 62.7                       | 58.1                      | 63.8                       | 58.9                       | 50.9                         | 60.1                         | 56.0                           | 66.0  |
| イギリス    | 47.8               | 56.5                       | 57.2                      | 59.6                       | 51.5                       | 46.5                         | 57.1                         | 53.6                           | 65.2  |
| 中国      | 71.0 1位            | 70.2 1位                    | 70.6 1位                   | 68.1 1位                    | 68.1 1位                    | 68.7 1位                      | 69.6                         | 66.1 1位                        | 72.2 1位                                     |
| 韓国      | 57.6               | 58.6                       | 61.4                      | 61.3                       | 59.5                       | 61.7                         | 59.7                         | 58.8                           | 64.6  |
| インド     | 63.2               | 68.7                       | 68.8                      | 67.3                       | 62.9                       | 62.9                         | 69.7 1位                      | 63.1                           | 71.2  |

# 18歳の意識調査

他国と比べ、学校で勉強することの意味を見出せない割合が高く、目指したい目標が見つかる割合が低い。ただし、自分の関心が広がることを重視する割合は高い。

学校で勉強する意味として重視してきたもの

|    | 日本<br>(n=1000) | アメリカ<br>(n=1000) | イギリス<br>(n=1000) | 中国<br>(n=1000)     | 韓国<br>(n=1000) | インド<br>(n=1000) |
|----|----------------|------------------|------------------|--------------------|----------------|-----------------|
| 1位 | よりよい職業に就職できる   | 将来の所得が高くなる       | 将来の所得が高くなる       | よりよい職業に就職できる       | よりよい職業に就職できる   | 目指したい目標が見つかる    |
| 2位 | 自分の関心が広がる      | 目指したい目標が見つかる     | 目指したい目標が見つかる     | 目指したい目標が見つかる       | 目指したい目標が見つかる   | 将来の所得が高くなる      |
| 3位 | 将来の所得が高くなる     | よりよい職業に就職できる     | よりよい職業に就職できる     | 国や社会に貢献できるようになる    | 将来の所得が高くなる     | よりよい職業に就職できる    |
| 4位 | よりよい学校に進学できる   | 自分の関心が広がる        | 新しい人と出会う         | 多様な意見・価値観を知ることができる | よりよい学校に進学できる   | 国や社会に貢献できるようになる |
| 5位 | 目指したい目標が見つかる   | 新しい人と出会う         | 自分の関心が広がる        | 将来の所得が高くなる         | 勉強することが義務だから   | 自分の関心が広がる       |

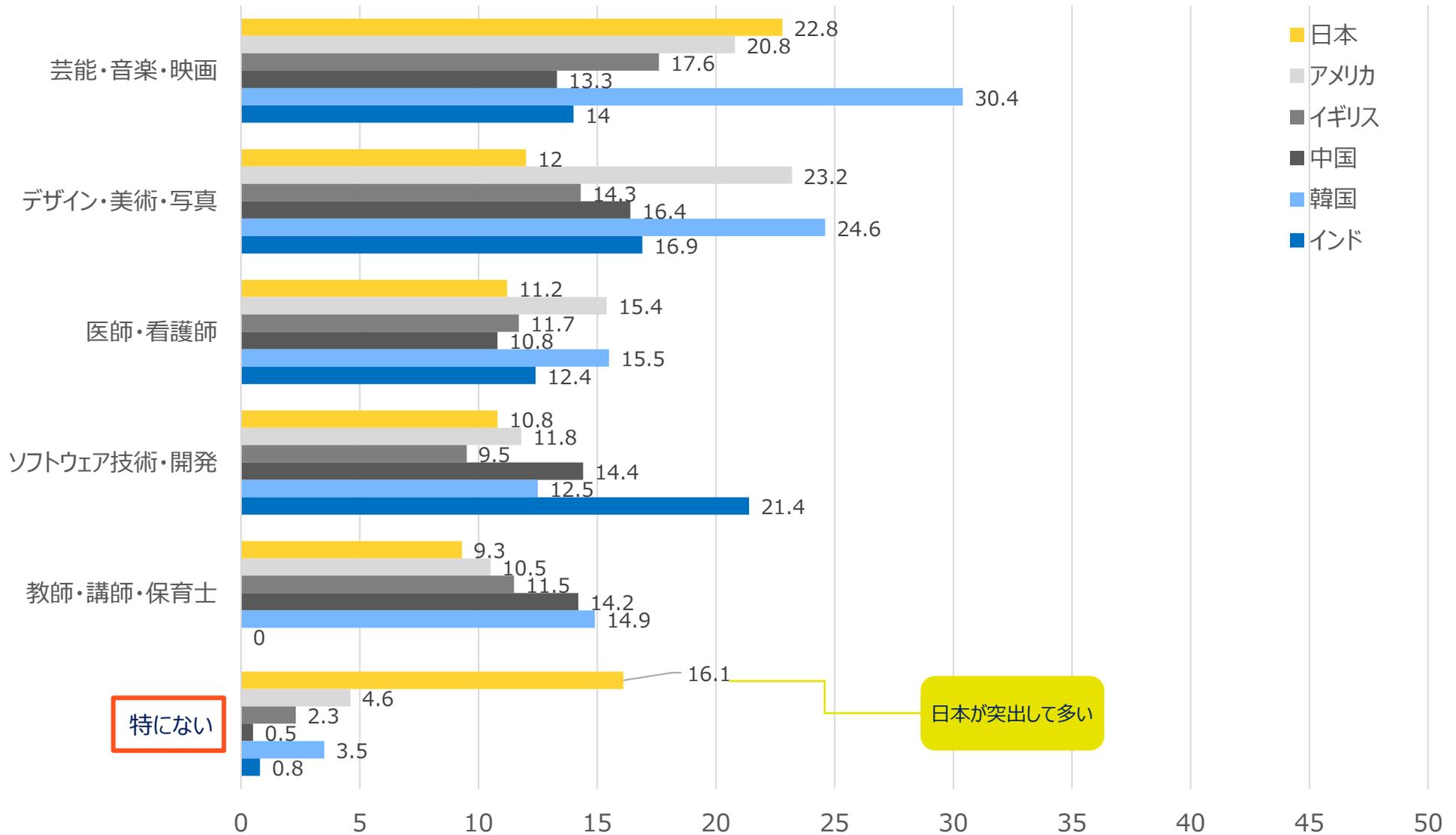


【対象】 日本・アメリカ・イギリス・中国・韓国・インド / 各国17歳から19歳男女 / 各国1000名

# 18歳の意識調査

## なりたい職業

自分は何がしたいのか、という問いへの答えを持っていない割合が、他国に比べ高い



日本が突出して多い

【対象】日本・アメリカ・イギリス・中国・韓国・インド / 各国17歳から19歳男女 / 各国1000名

# 学校教育に対する子供たちの様々な意見



今後、教室、クラスの在り方やスタイルは多様化していくべきだと思います。  
オンラインもオフラインも違う意味で得るものがありました。

学びのスタイルを自分自身でデザインしていくのが当たり前の、ある意味オールオッケーなクラスができてほしいです!!



自由を求められたり、自分の個性を生かしたり、他の人と違うことをやったりすることを強制させられるのは苦しいと思う人もいるのではないかなと思います。

自分の個性を見つけ出してそれを活かすために何か実践しないといけないという社会になるのは辛いんじゃないかなと思います。

特に精神的に不安定である中高生という時期にさらに不安や葛藤、周りと比べたときの劣等感に悩まされるようなこういった状況で生活するのは危険じゃないかなと思います。



被教育者目線としては**対面の授業の場を貴重な機会として大事にしていってほしい**と思った。  
オンライン授業の経験を通し、やはり対面で授業を受けて議論し合う**機会は必要**だと感じた。

オンライン上では議論することはできても、何か熱の入った議論がしにくいと思う。

だからこそ、**デジタルの力を適材適所利用しつつも、対面の機会を活用するシステムの構築**をお願いしたい。



一つの教室にクラス全員が集まって授業を受ける意味は、今コロナ禍においても言えることだと思っています。

(略)

**色んな人の色々な意見、個性、特徴、顔色、すべてを肌で感じる環境だからこそ、大変なこともあるけど集団としての成長や得るものの大きさはやはり何にも変えられない**なと去年感じました。

# 学校教育に対する子供たちの様々な意見



**授業を構成するのは生徒であり、生徒が授業を進めていくという感覚を持たせることが必要だ。**

(略)

生徒自体が授業を進めていくことによって、教師が気づかなかったことも生まれるだろうし、多様性を担保しながら互いに能力を伸ばし合うことが可能となる。この中で、**教師は授業が過度に関係のないトピックに集中しないかを監視し、時には方向性を修正するサポーターとしての役割を果たすべきである。**



**「好き」や「夢中」を見つけるためには、様々なものに本気で触れてみる大切だと思います。**

(略)

学校などの取り組みで様々なものに触れる機会があってもサラッと触れる程度では何の意味もなく、「何か思っていたのと違った…」で終わります。



「個別最適な学び」にとって重要なのは「自分で自分の学びの目的やペースを自分で試行錯誤しながら見定めること」とありますが、実際には生徒がこのような試行錯誤を行っていくことは難しいと思います。

**自分は高校生ですが、そのような試行錯誤を急にやってくれと言われても何も思いつかないし、他にもこのような状況の高校生は多数いると思います。従って、大人たちが生徒たちに試行錯誤の方法を教える機会が必要だと考えます。**



僕はもう小学校4年生です。

**今の学校で皆一斉に同じ事を同じようにする事を求められるのが苦痛です。**

一刻も早く変わってほしいです。

いきなり全部変わるのは無理でも、ほんの少しでも新しい要素が入れば毎日をもっと楽しくなると思っています。

# 特異な才能のある児童生徒・保護者等に対するアンケート結果

## 本人の回答



### レベルが合わない

・教科書の内容はすべて理解していたが、自分のレベルに合わせた勉強をすることはまったく許されなかった。周囲に合わせてと叱られ、授業中は常に暇を持て余していた。



### 教材が合わない

・いわゆる2E状態で、鉛筆をもって字を書く速度の遅さと、脳内での処理速度の速さが釣り合わず、プリントでの学習にストレスを感じていた。



### 話が合わない

・同級生との話がかみ合わず、大人と話している方が良い。あまり周りに理解してもらえない。友達に変わっている子扱いされる。学校に行く時間を自分の好きなことの時間にしたい。

## 保護者等の回答



### レベルが合わない

・授業の内容がすぐに理解できてしまいその先への興味が先行するが、満足できる知識は提供されず退屈してしまう。できない人へ教えるなどの機会は得られるが、知的好奇心は満たされず、集団での行動がつまらない、自分はできない、と自己肯定感が下がる経験を日常的にしられる。



### 教師と合わない

・教師も、授業を重ねるたびに無気力かつ反動的になってくる子供に対し、怒りを感じ問題児扱いし、授業態度を叱責する。



### 楽しかったクラスもあった

・正しい答えだけでなく、「何故、そのように考えるのか」、考え方を発表させてくれた先生のクラスは非常に楽しかったと申しておりました。

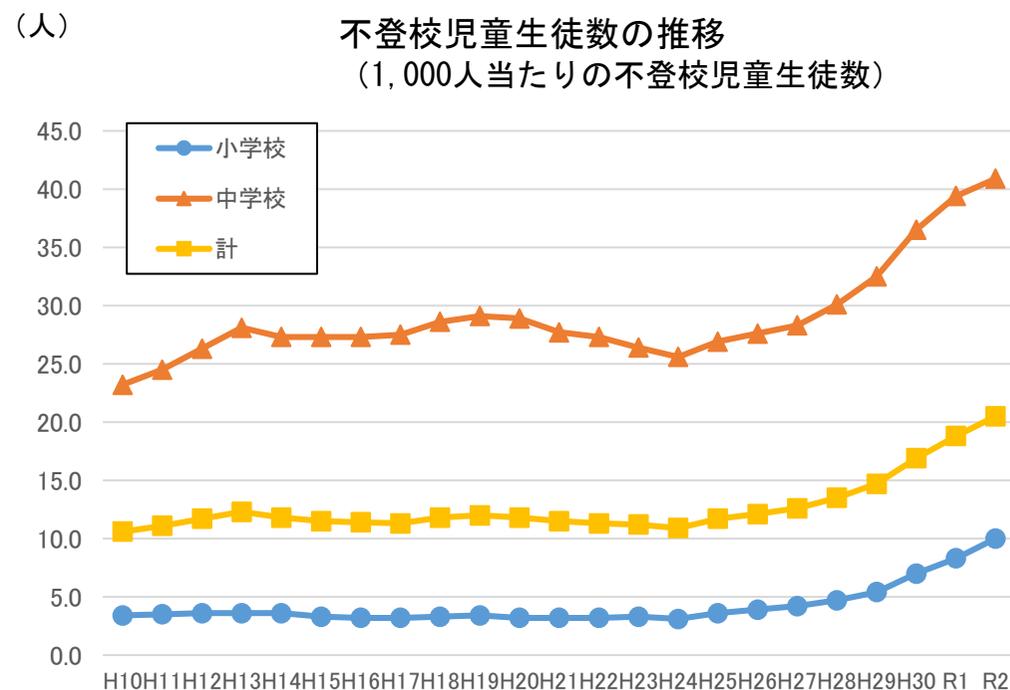
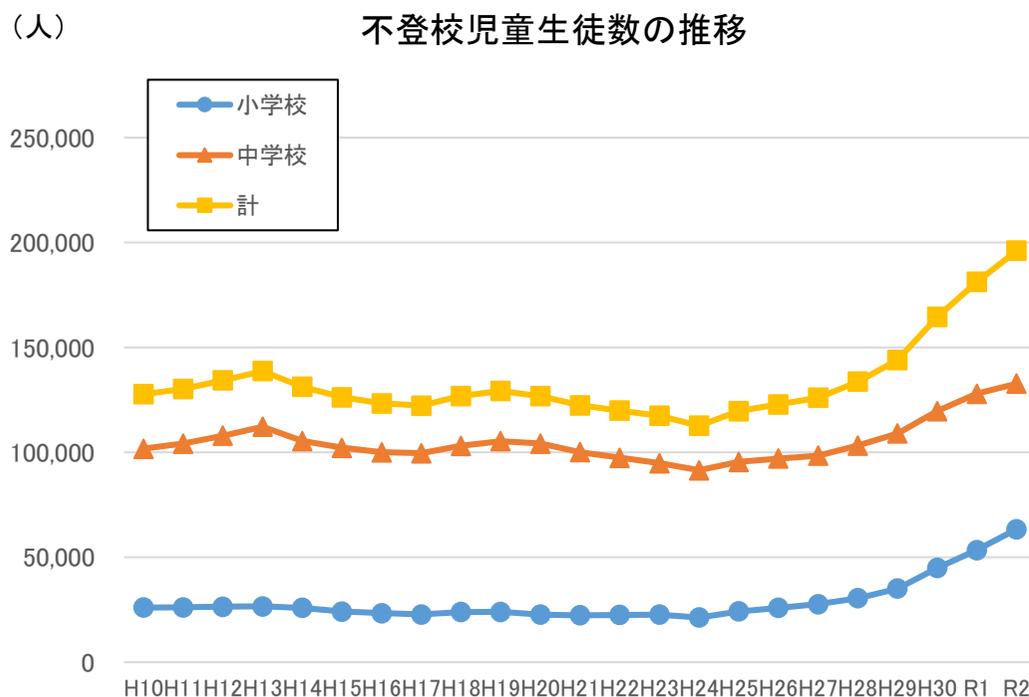


### 【係】で自己評価上がった

・学校では学級に「係」制度があり、自分の好きなことを利用してクラスのために貢献することができる。想像力や協働力を強制的ではない形で発揮させてくれ、課外であるため、自由度も高く、肯定的に評価されることも多く、本人の自己評価にも役立っている。

# 小・中学校における不登校の状況について

小・中学校における長期欠席者のうち、不登校児童生徒数は196,127人（前年度181,272人）であり、児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒数は20.5人（前年度18.8人）。不登校児童生徒数は8年連続で増加し、過去最多となっている。



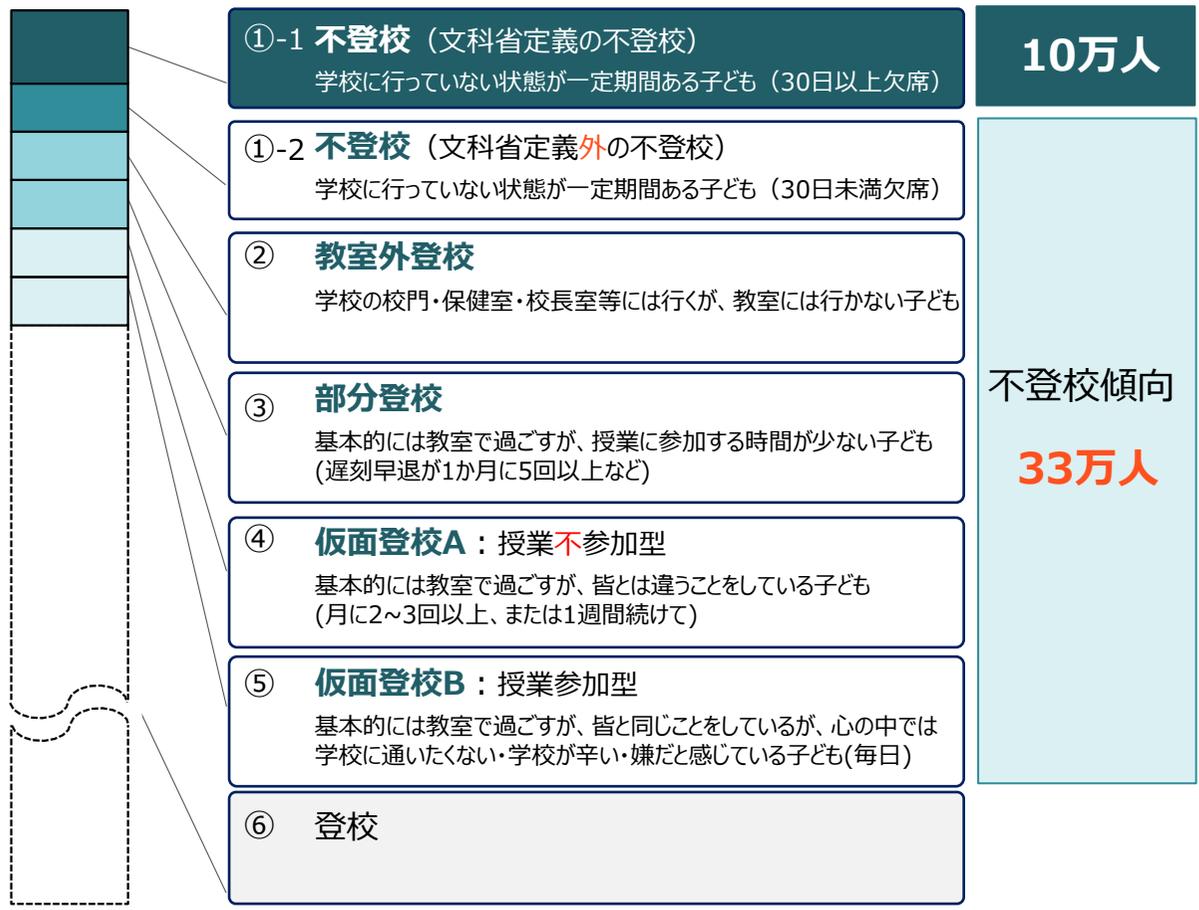
## 不登校児童生徒数(上段)と1,000人当たりの不登校児童生徒数(下段)

|     | H10     | H11     | H12     | H13     | H14     | H15     | H16     | H17     | H18     | H19     | H20     | H21     | H22     | H23     | H24     | H25     | H26     | H27     | H28     | H29     | H30     | R元      | R2      |
|-----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 小学校 | 26,017  | 26,047  | 26,373  | 26,511  | 25,869  | 24,077  | 23,318  | 22,709  | 23,825  | 23,927  | 22,652  | 22,327  | 22,463  | 22,622  | 21,243  | 24,175  | 25,864  | 27,583  | 30,448  | 35,032  | 44,841  | 53,350  | 63,350  |
|     | 3.4     | 3.5     | 3.6     | 3.6     | 3.6     | 3.3     | 3.2     | 3.2     | 3.3     | 3.4     | 3.2     | 3.2     | 3.2     | 3.3     | 3.1     | 3.6     | 3.9     | 4.2     | 4.7     | 5.4     | 7.0     | 8.3     | 10.0    |
| 中学校 | 101,675 | 104,180 | 107,913 | 112,211 | 105,383 | 102,149 | 100,040 | 99,578  | 103,069 | 105,328 | 104,153 | 100,105 | 97,428  | 94,836  | 91,446  | 95,442  | 97,033  | 98,408  | 103,235 | 108,999 | 119,687 | 127,922 | 132,777 |
|     | 23.2    | 24.5    | 26.3    | 28.1    | 27.3    | 27.3    | 27.3    | 27.5    | 28.6    | 29.1    | 28.9    | 27.7    | 27.3    | 26.4    | 25.6    | 26.9    | 27.6    | 28.3    | 30.1    | 32.5    | 36.5    | 39.4    | 40.9    |
| 計   | 127,692 | 130,227 | 134,286 | 138,722 | 131,252 | 126,226 | 123,358 | 122,287 | 126,894 | 129,255 | 126,805 | 122,432 | 119,891 | 117,458 | 112,689 | 119,617 | 122,897 | 125,991 | 133,683 | 144,031 | 164,528 | 181,272 | 196,127 |
|     | 10.6    | 11.1    | 11.7    | 12.3    | 11.8    | 11.5    | 11.4    | 11.3    | 11.8    | 12.0    | 11.8    | 11.5    | 11.3    | 11.2    | 10.9    | 11.7    | 12.1    | 12.6    | 13.5    | 14.7    | 16.9    | 18.8    | 20.5    |

※平成10年度調査より不登校児童生徒として調査を行っている。

# 不登校傾向にある中学生の状況（推計）

## 不登校傾向にある子どもの人数（推計）



日本財団調査  
(中学生が回答)

## 中学校に行きたくない理由

- 身体的理由**
  - 疲れる
  - 朝、起きられないなど
- 学習に関する理由**
  - 授業がよくわからない/ついていけない
  - テストを受けたくないなど
- 居心地に関する理由**
  - 学校は居心地が悪い
  - 友達とうまくいかないなど

詳細は次ページへ

日本財団 不登校傾向にある子どもの実態調査（2018年12月12日）より作成

# 不登校傾向にある中学生の状況（学校に行きたくない理由）

中学校に行きたくない理由

身体的理由に加え、学習に関する悩みや友人関係に関する悩みを抱えている場合が多い

|     | ⑥<br>①~⑤非該当<br>(不登校ではない)<br>生徒 | ①-1<br>1年間に合計30日以上、<br>学校を休んだことがある/<br>休んでいる生徒 | ①-2<br>1週間以上連続で、<br>学校を休んだことがある/<br>休んでいる生徒 | ②~④<br>いずれかを選択した生徒         | ⑤<br>基本的には教室で過ごし皆<br>と同じことをしているが、心<br>の中では学校に通いたくない、<br>学校が辛い、嫌だと感じてい<br>る |
|-----|--------------------------------|--|---|----------------------------|--|
| 1位  | 疲れる (25.7)                     | 朝、起きられない (59.5)                                | 疲れる (38.2)                                  | 疲れる (44.0)                 | 疲れる (48.7)   |
| 2位  | 朝、起きられない (19.2)                | 疲れる (58.2)                                     | 朝、起きられない (32.6)                             | 朝、起きられない (35.6)            | 朝、起きられない (32.2)  |
| 3位  | テストを受けたくない (16.0)              | 学校に行こうとすると体調が悪くなる (52.9)                       | 自分でもよくわからない (31.0)                          | 授業がよくわからない・ついていけない (33.3)  | 学校に行く意味がわからない (31.9)   |
| 4位  | 自分でもよくわからない (15.0)             | 授業がよくわからない・ついていけない (49.9)                      | 友達とうまくいかない (30.1)                           | 友達とうまくいかない (28.5)          | 学校は居心地が悪い (28.4)   |
| 5位  | 小学校の時と比べて、良い成績がとれない (13.0)     | 学校は居心地が悪い (46.1)                               | 授業がよくわからない・ついていけない (29.2)                   | 小学校の時と比べて、良い成績がとれない (27.1) | テストを受けたくない (28.2)  |
| 6位  | 部活がハード (11.8)                  | 友達とうまくいかない (46.1)                              | 小学校の時と比べて、良い成績がとれない (28.9)                  | テストを受けたくない (27.0)          | 小学校の時と比べて、良い成績がとれない (27.8)   |
| 7位  | 授業がよくわからない・ついていけない (11.6)      | 自分でもよくわからない (44.0)                             | 学校に行こうとすると体調が悪くなる (28.1)                    | 先生とうまくいかない/頼れない (26.1)     | 授業がよくわからない・ついていけない (27.3)  |
| 8位  | 友達とうまくいかない (10.1)              | 学校に行く意味がわからない (42.9)                           | 学校は居心地が悪い (24.5)                            | 学校は居心地が悪い (25.9)           | 先生とうまくいかない/頼れない (26.1)   |
| 9位  | 校則など学校の決まりが嫌だ (7.1)            | 先生とうまくいかない/頼れない (38.0)                         | 先生とうまくいかない/頼れない (23.4)                      | 校則など学校の決まりが嫌だ (22.5)       | 小学校の時と比べて、つまらない (25.0)   |
| 10位 | 小学校の時と比べて、つまらない (6.7)          | 小学校の時と比べて、良い成績がとれない (33.9)                     | テストを受けたくない (23.2)                           | 小学校の時と比べて、つまらない (21.8)     | 友達とうまくいかない (24.1)  |

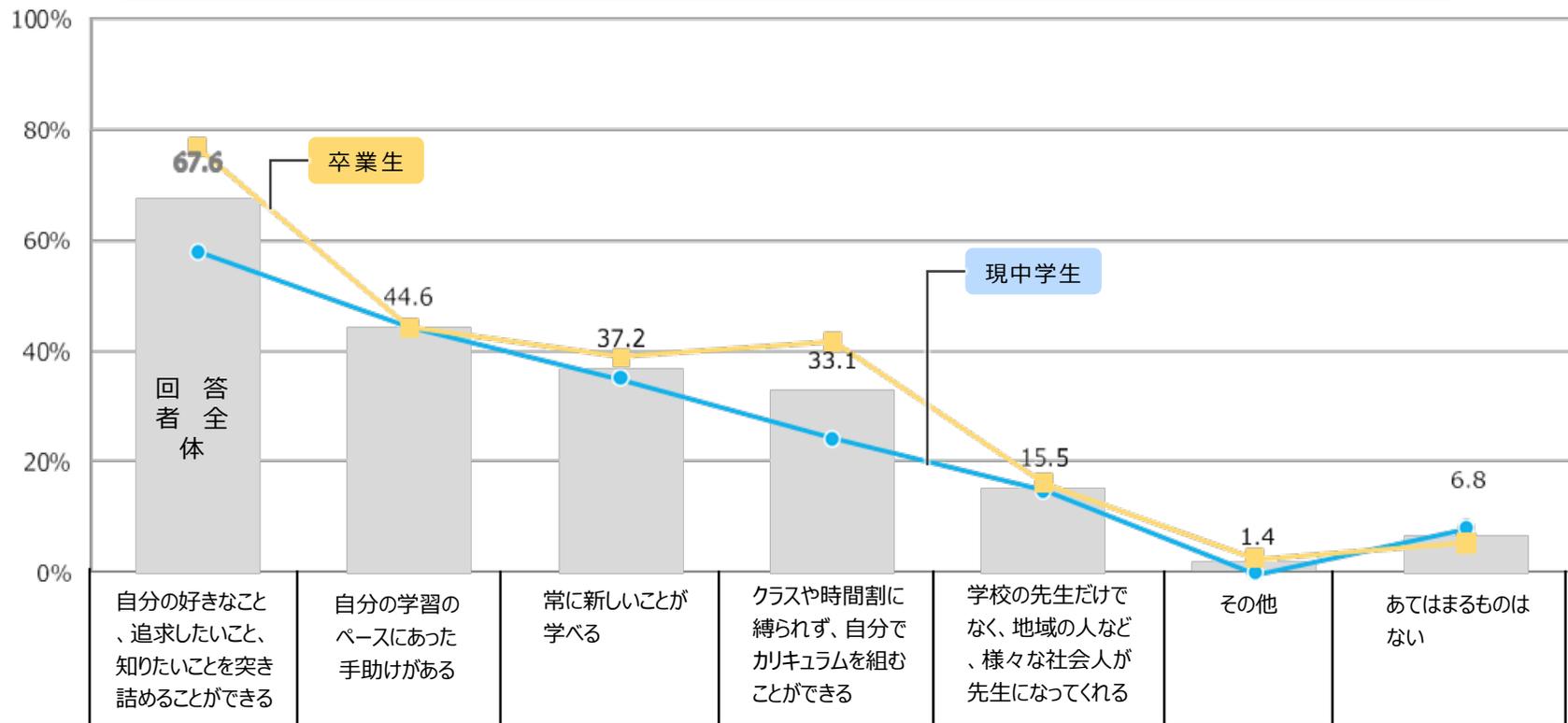
日本財団 不登校傾向にある子どもの実態調査 (2018年12月12日) より作成

# 不登校傾向にある中学生の状況（学びの場に係る希望）

## 自分の興味・関心に基づく学びや、自分の学習進度に合った学びを求めている

【不登校または不登校傾向にある現中学生と卒業生(中学卒業後～22歳)に聞いた】

Q. あなたはどのような場所だったら学びたいと思いますか。あてはまるものを全てお答えください。

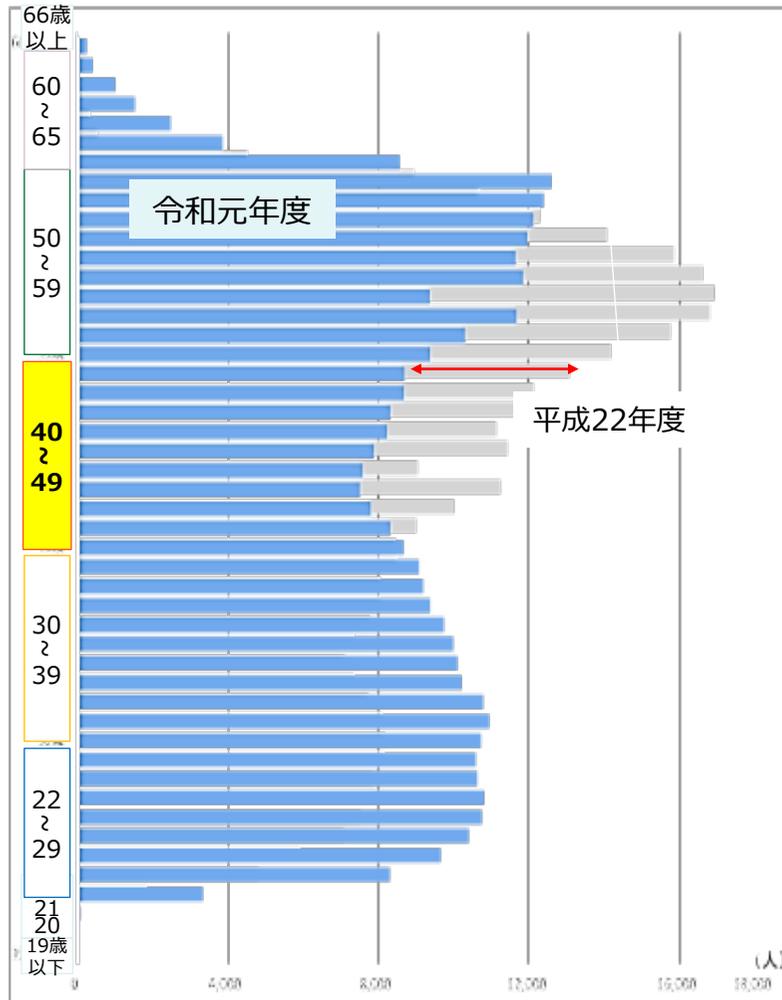


| 本調査回答者 | 回答セル | 人数  | 自分の好きなこと、追求したいこと、知りたいことを突き詰めることができる (%) | 自分の学習のペースにあった手助けがある (%) | 常に新しいことが学べる (%) | クラスや時間割に縛られず、自分でカリキュラムを組むことができる (%) | 学校の先生だけでなく、地域の人など、様々な社会人が先生になってくれる (%) | その他 (%) | あてはまるものはない (%) |
|--------|------|-----|---|-------------------------|-----------------|-------------------------------------|--|---------|----------------|
| 全体     | ■    | 148 | 67.6                                    | 44.6                    | 37.2            | 33.1                                | 15.5                                   | 1.4     | 6.8            |
| 現中学生   | ◆    | 74  | 58.1                                    | 44.6                    | 35.1            | 24.3                                | 14.9                                   | -       | 8.1            |
| 中学卒業後  | ●    | 74  | 77.0                                    | 44.6                    | 39.2            | 41.9                                | 16.2                                   | 2.7     | 5.4            |

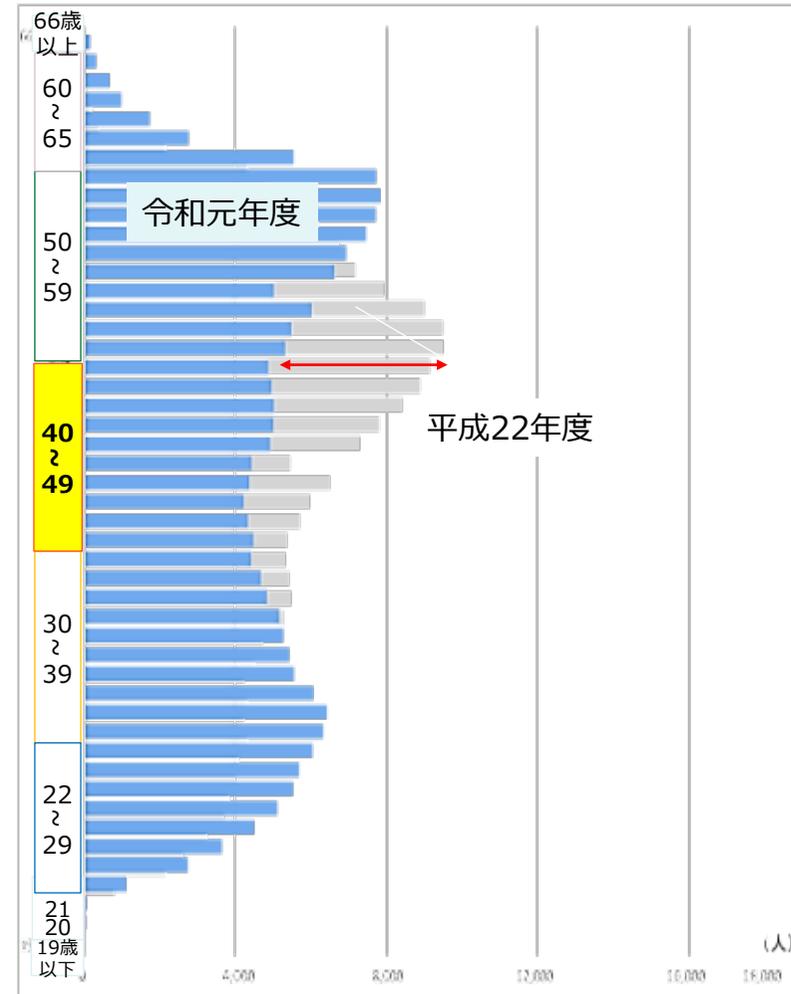
# 教職員の状況

小・中ともに、中核となる年齢の教員の割合が減少

公立学校における教員の年齢構成(小学校)



公立学校における教員の年齢構成(中学校)



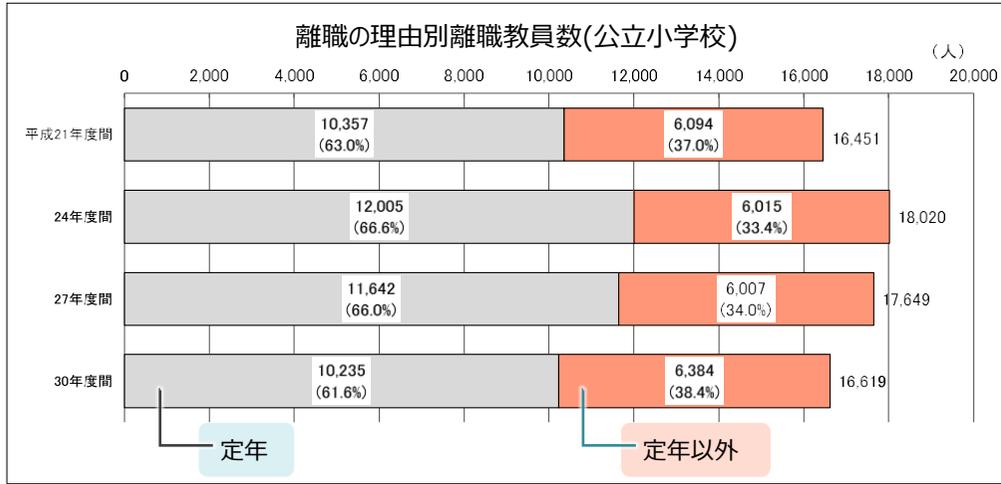
令和元年度学校教員統計調査(確定値)より作成

# 教職員の状況

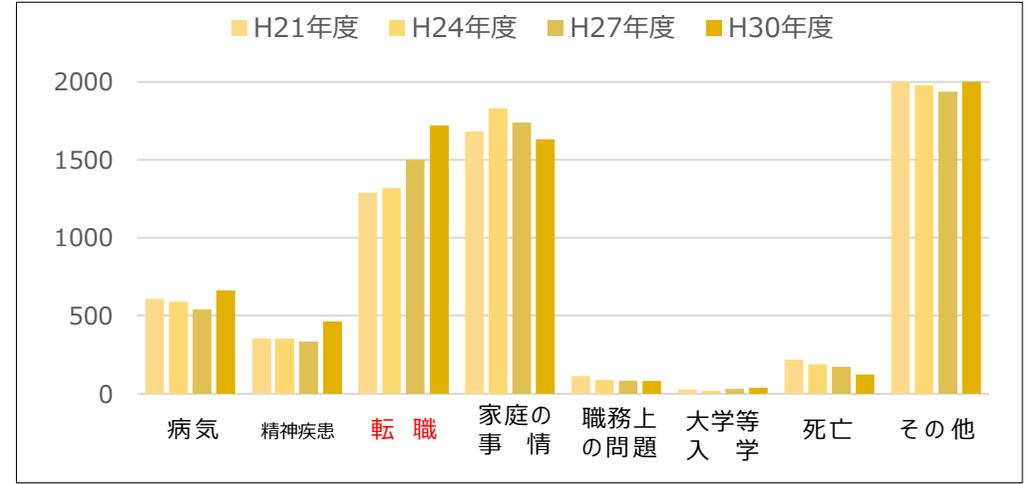
## 小中ともに、転職を理由にした離職が増加

### 【公立小学校】

離職者数16,619人（前回調査時より 1,030人減少）

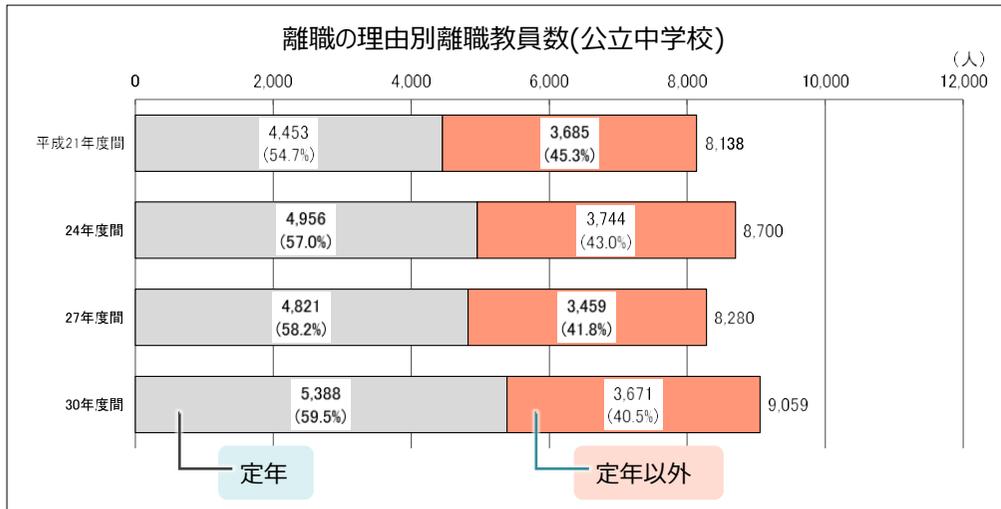


### 離職理由（定年を除く）

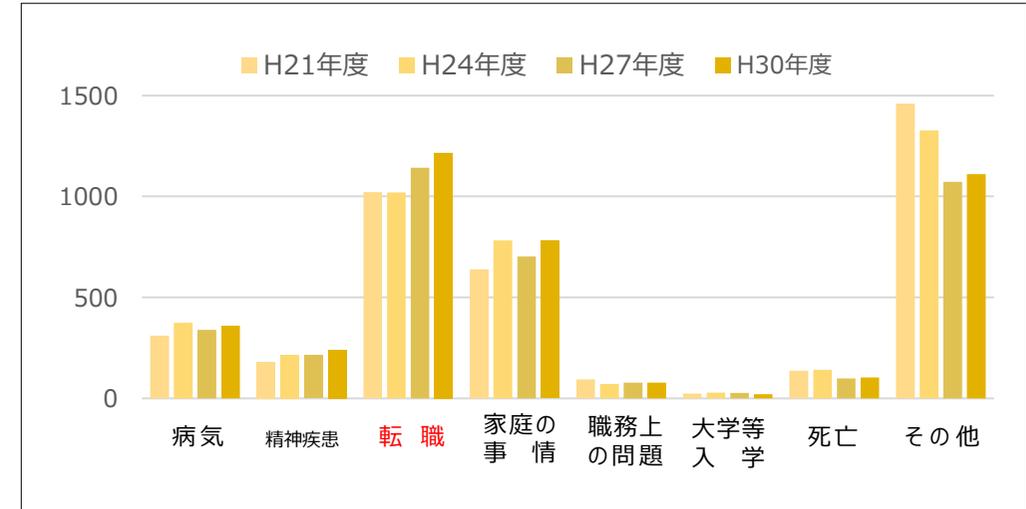


### 【公立中学校】

離職者数 9059人（前回調査時より 779人増加）



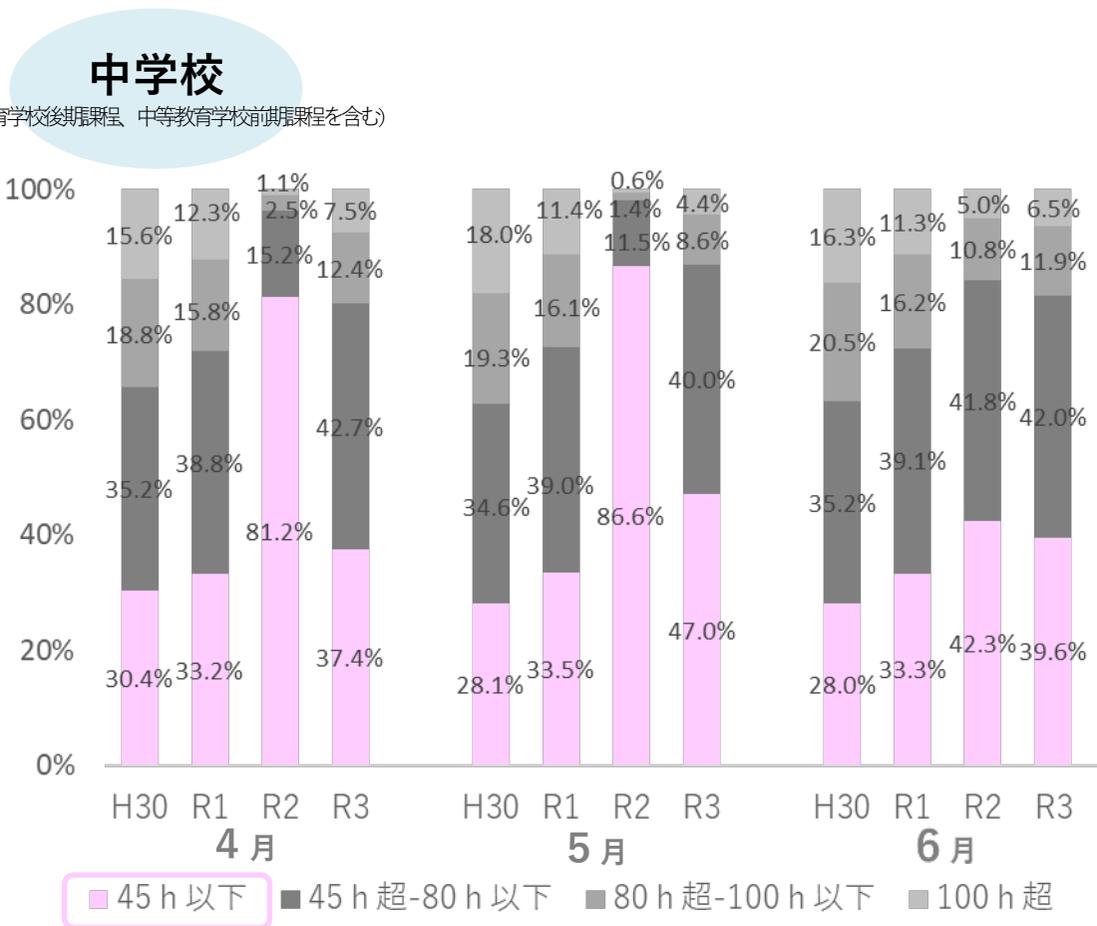
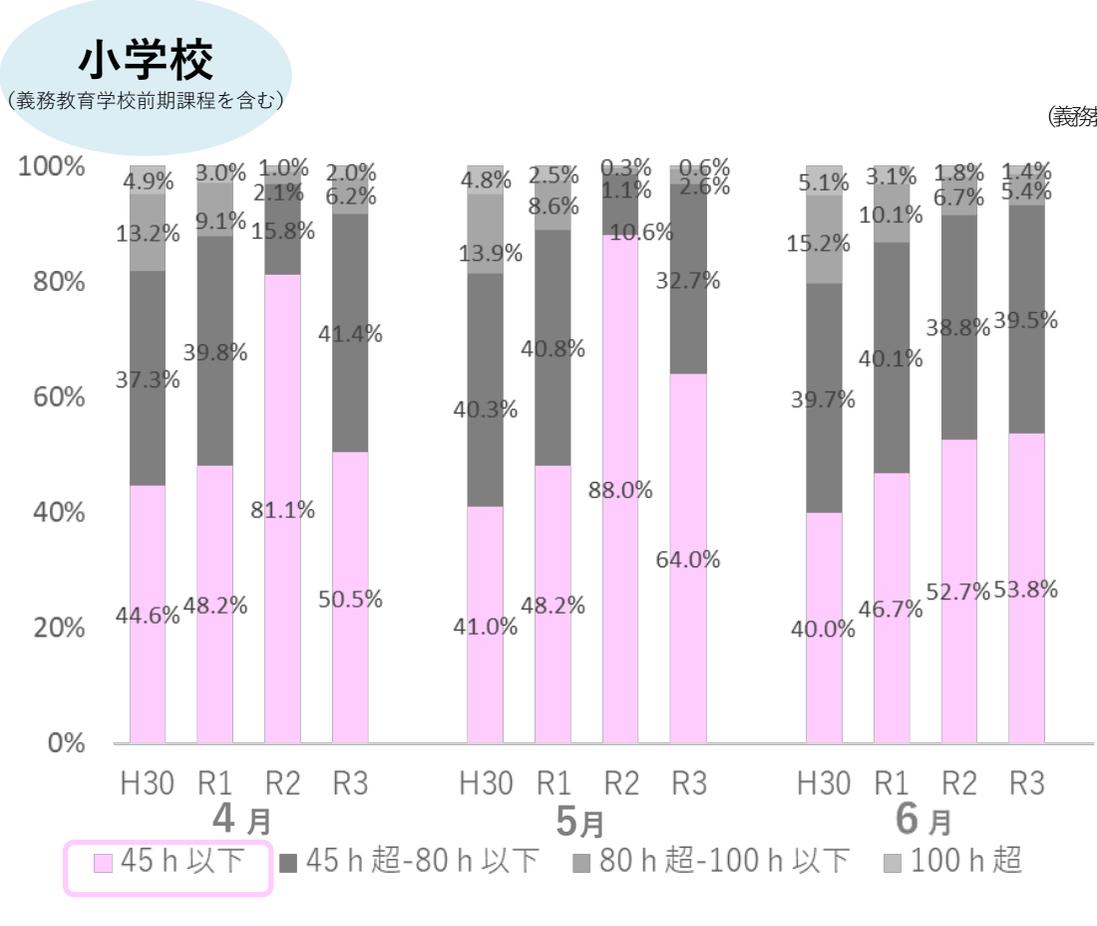
### 離職理由（定年を除く）



# 教職員の時間外勤務の経年比較

「時間外勤務月45時間以下」の割合（5月）は、平成30年度と比較し、小学校は23ポイント増加、中学校は19ポイント増加しており、学校における働き方改革の成果が着実にしつつあるものの、依然として長時間勤務の教職員も多く、引き続き、取組を加速させていく必要がある

【問】 域内の学校における教職員のうち、「在校等時間」等の総時間から所定の勤務時間の総時間を減じた時間

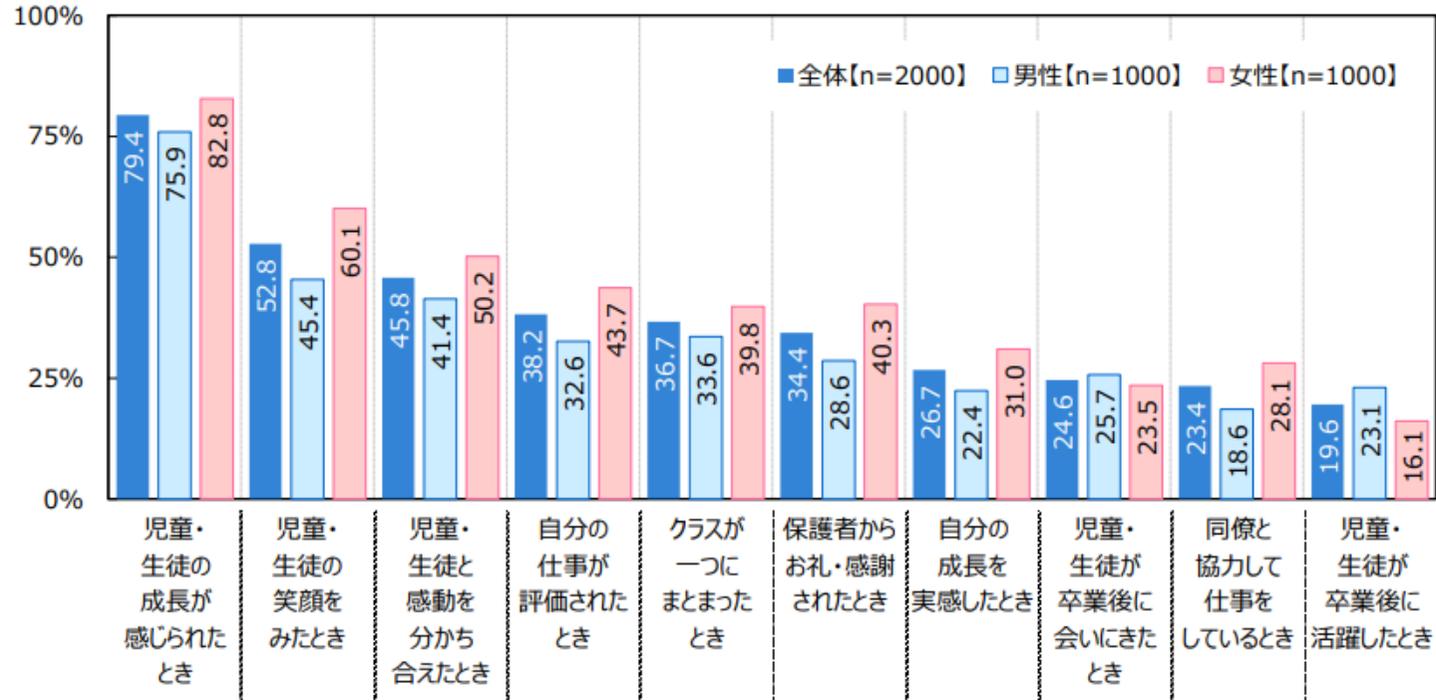


※令和2年4月～5月については、全国的に多くの学校が臨時休業を実施

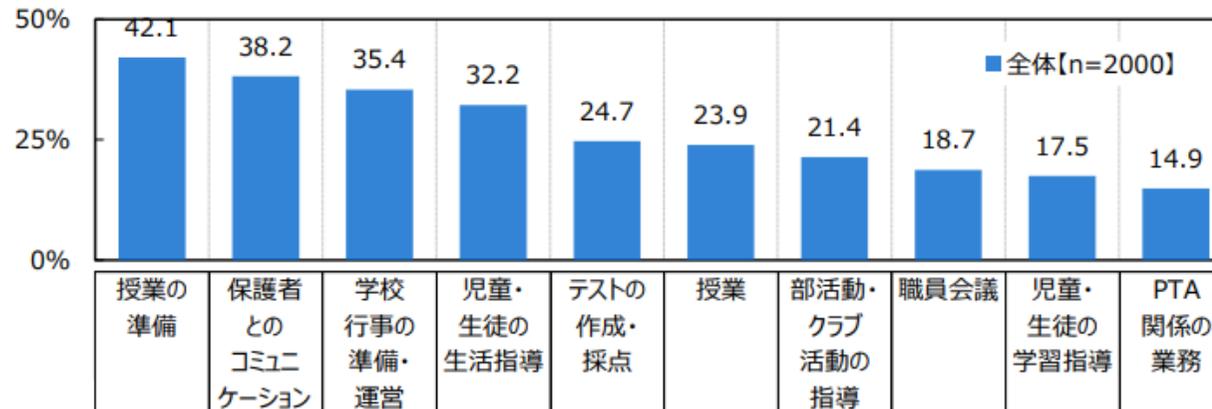
# 教師の意識調査

児童生徒に関わることにやりがいを感じる一方で、授業の準備や保護者とのコミュニケーション等に苦勞を感じている

◆教員としてどのようなときにやりがいを感じるか（複数回答形式） ※上位10位までを表示



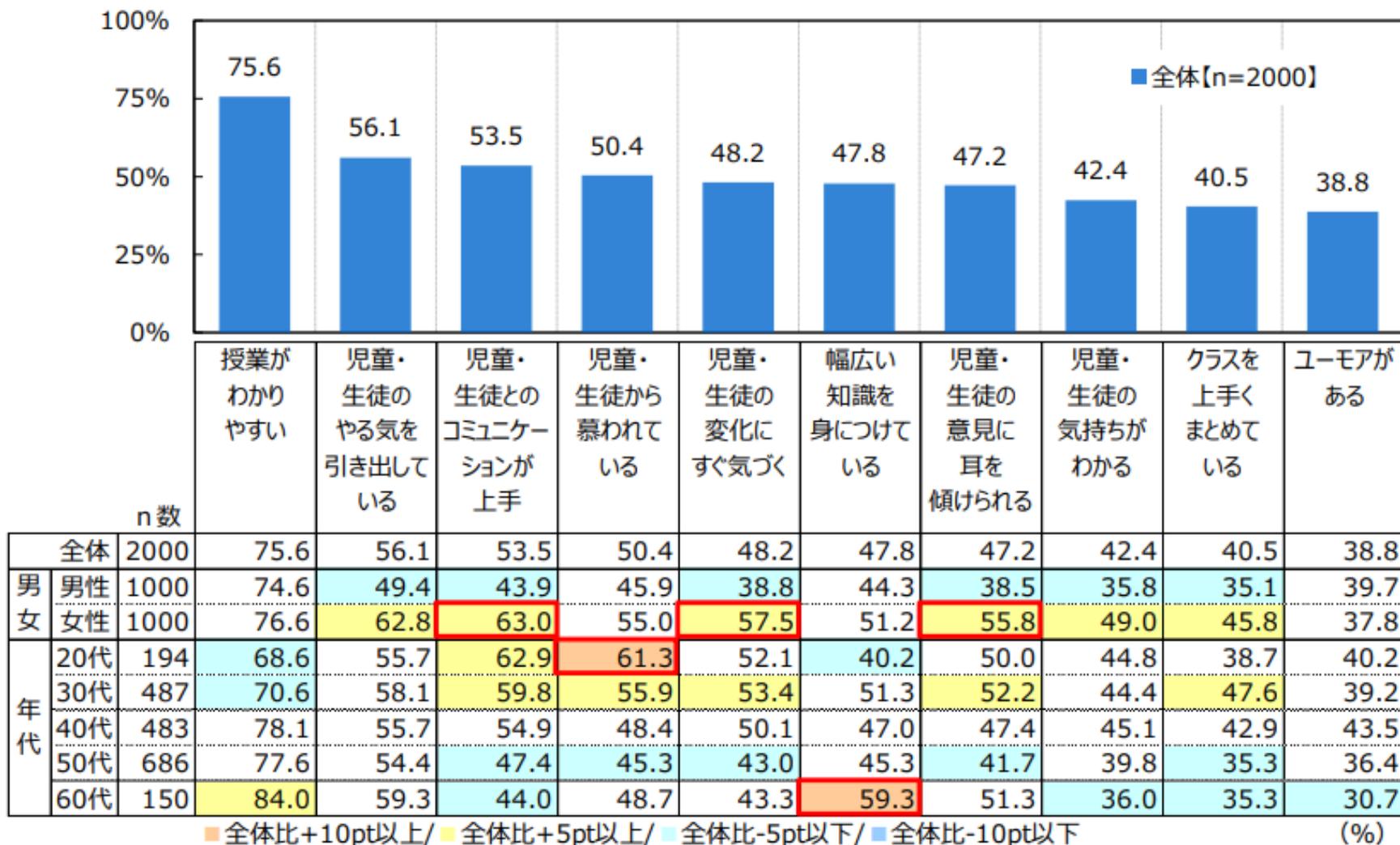
◆教員の仕事で苦勞していること（複数回答形式） ※上位10位までを表示



# 教師の意識調査

理想の教員像として「授業がわかりやすい」を挙げる割合が突出して高い一方で、「児童・生徒の意見に耳を傾けられる」を挙げる割合が相対的に低くなっている。児童生徒に授業の内容を理解して欲しい、という想いの表れである一方、児童生徒の思いや考えを受け止めることに対する評価が相対的に低いとも言える

◆理想の教員像（複数回答形式） ※上位10位までを表示



# 教師の意識調査

多くの教員が、教師という職業に対する誇りややりがいを持ち続けている

◆今、転職するなら就きたい職業（複数回答形式） ※上位10位までを表示

| 全体【n=2000】 |                                       |      | 男性【n=1000】 |                                       |      | 女性【n=1000】 |                                       |      |
|------------|---------------------------------------|------|------------|---------------------------------------|------|------------|---------------------------------------|------|
| 順位         | 職業                                    | %    | 順位         | 職業                                    | %    | 順位         | 職業                                    | %    |
| 1位         | 教員                                    | 16.5 | 1位         | 教員                                    | 16.6 | 1位         | 教員                                    | 16.4 |
| 2位         | 公務員 <small>（教員・警察官・消防官・自衛官除く）</small> | 12.0 | 2位         | 大学教授・研究者                              | 14.2 | 2位         | 公務員 <small>（教員・警察官・消防官・自衛官除く）</small> | 14.6 |
| 3位         | 大学教授・研究者                              | 10.0 | 3位         | 公務員 <small>（教員・警察官・消防官・自衛官除く）</small> | 9.3  | 3位         | 保育士・幼稚園教諭                             | 6.6  |
| 4位         | 料理人・パティシエ                             | 5.6  | 4位         | 料理人・パティシエ                             | 5.8  | 4位         | 会社員                                   | 6.0  |
| 5位         | 会社員                                   | 4.6  | 5位         | 建築家・大工                                | 5.5  | 5位         | 大学教授・研究者                              | 5.8  |
| 6位         | 医師                                    | 4.5  | 6位         | 医師                                    | 4.7  | 6位         | 料理人・パティシエ                             | 5.4  |
| 7位         | 保育士・幼稚園教諭                             | 4.2  | 7位         | パイロット                                 | 4.1  | 7位         | 薬剤師                                   | 5.4  |
|            | 建築家・大工                                | 4.2  |            | プロスポーツ選手                              | 4.1  | 8位         | 医師                                    | 4.3  |
| 9位         | 薬剤師                                   | 3.8  | 9位         | 警察官・消防官・自衛官                           | 3.5  | 9位         | 看護師                                   | 4.0  |
| 10位        | 芸術家                                   | 3.2  |            | 政治家                                   | 3.5  | 10位        | 芸術家                                   | 3.1  |

◆生まれ変わったら就きたい職業（複数回答形式） ※上位10位までを表示

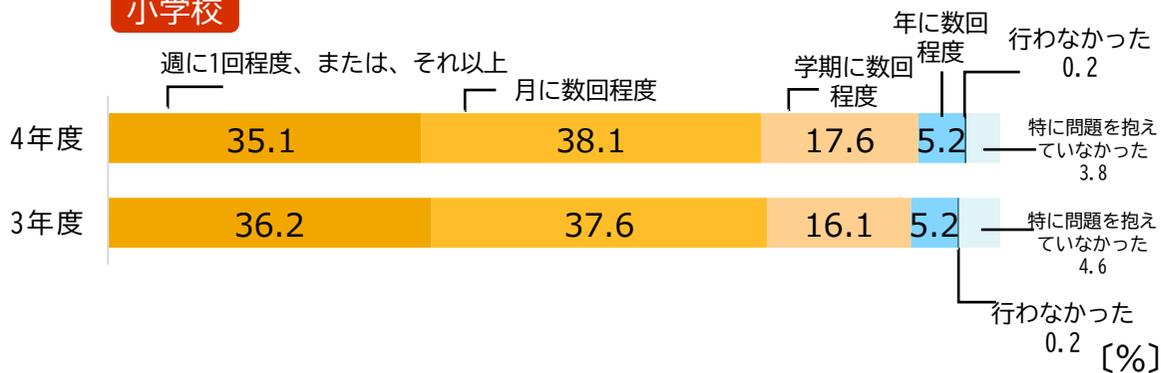
| 全体【n=2000】 |                                       |      | 男性【n=1000】 |                                       |      | 女性【n=1000】 |                                       |      |
|------------|---------------------------------------|------|------------|---------------------------------------|------|------------|---------------------------------------|------|
| 順位         | 職業                                    | %    | 順位         | 職業                                    | %    | 順位         | 職業                                    | %    |
| 1位         | 教員                                    | 17.8 | 1位         | 教員                                    | 20.4 | 1位         | 教員                                    | 15.3 |
| 2位         | 医師                                    | 10.7 | 2位         | プロスポーツ選手                              | 13.5 | 2位         | 医師                                    | 10.7 |
| 3位         | 大学教授・研究者                              | 8.3  | 3位         | 大学教授・研究者                              | 12.0 | 3位         | キャビンアテンダント                            | 9.2  |
|            | プロスポーツ選手                              | 8.3  | 4位         | 医師                                    | 10.7 | 4位         | 歌手・ミュージシャン                            | 7.7  |
| 5位         | 公務員 <small>（教員・警察官・消防官・自衛官除く）</small> | 6.9  | 5位         | 建築家・大工                                | 7.0  | 5位         | 料理人・パティシエ                             | 7.6  |
| 6位         | 歌手・ミュージシャン                            | 6.8  | 6位         | パイロット                                 | 6.8  |            | 芸術家                                   | 7.6  |
| 7位         | 料理人・パティシエ                             | 6.3  | 7位         | 公務員 <small>（教員・警察官・消防官・自衛官除く）</small> | 6.5  | 7位         | 薬剤師                                   | 7.4  |
| 8位         | 建築家・大工                                | 6.2  | 8位         | 歌手・ミュージシャン                            | 5.8  | 8位         | 公務員 <small>（教員・警察官・消防官・自衛官除く）</small> | 7.2  |
| 9位         | 芸術家                                   | 6.0  | 9位         | 料理人・パティシエ                             | 4.9  | 9位         | タレント・俳優                               | 6.8  |
| 10位        | タレント・俳優                               | 5.8  | 10位        | タレント・俳優                               | 4.7  | 10位        | デザイナー                                 | 6.2  |

# 学校の状況

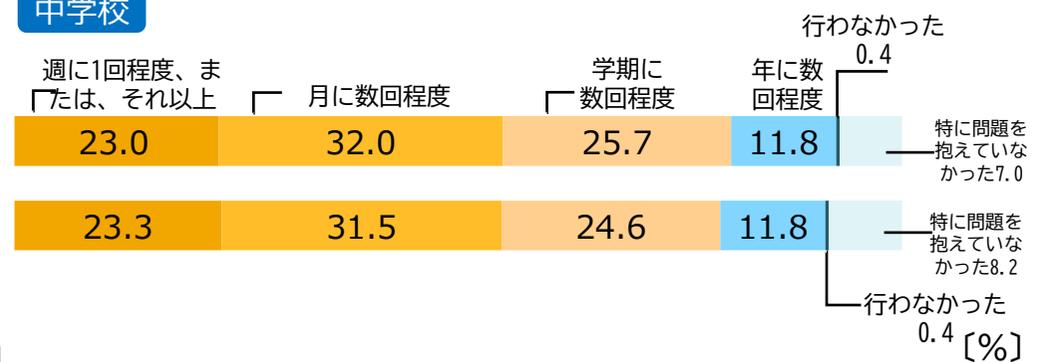
教師一人一人をサポートする状況は学校によって様々。また、小・中によっても差がある。

前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか

## 小学校

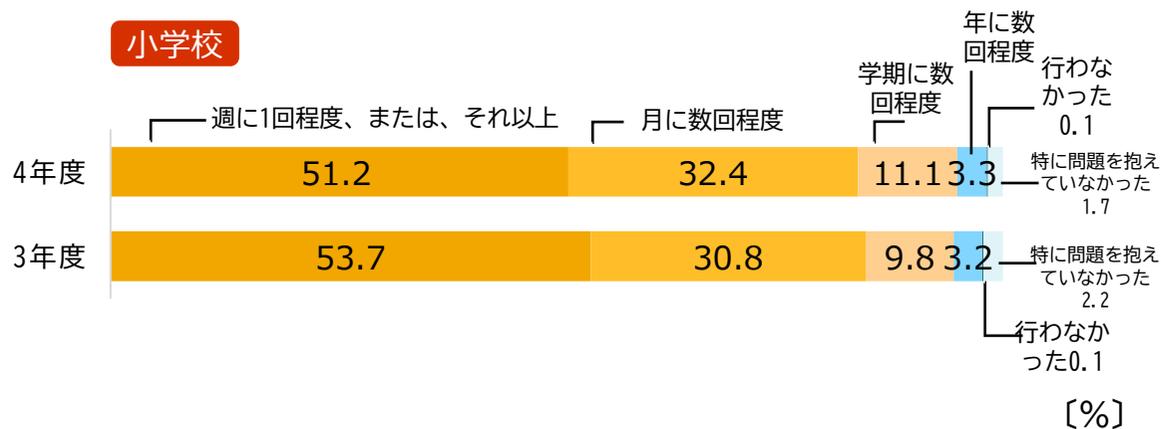


## 中学校

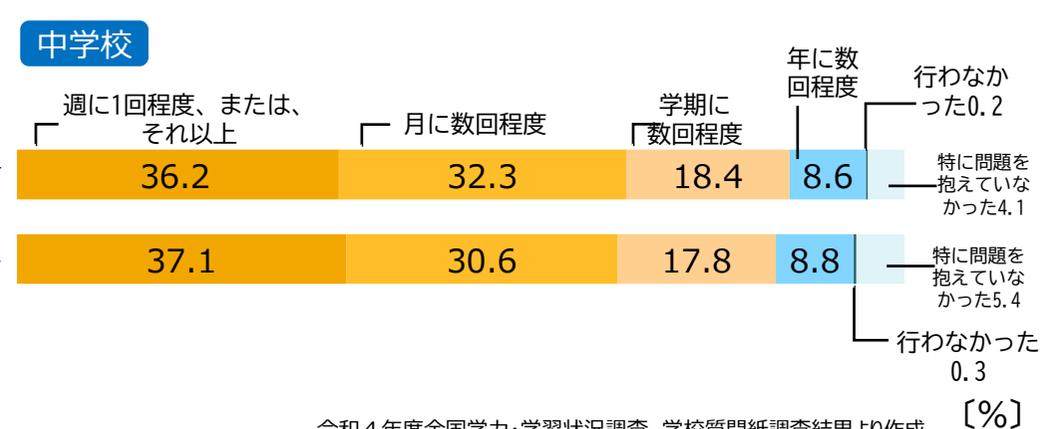


前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

## 小学校



## 中学校

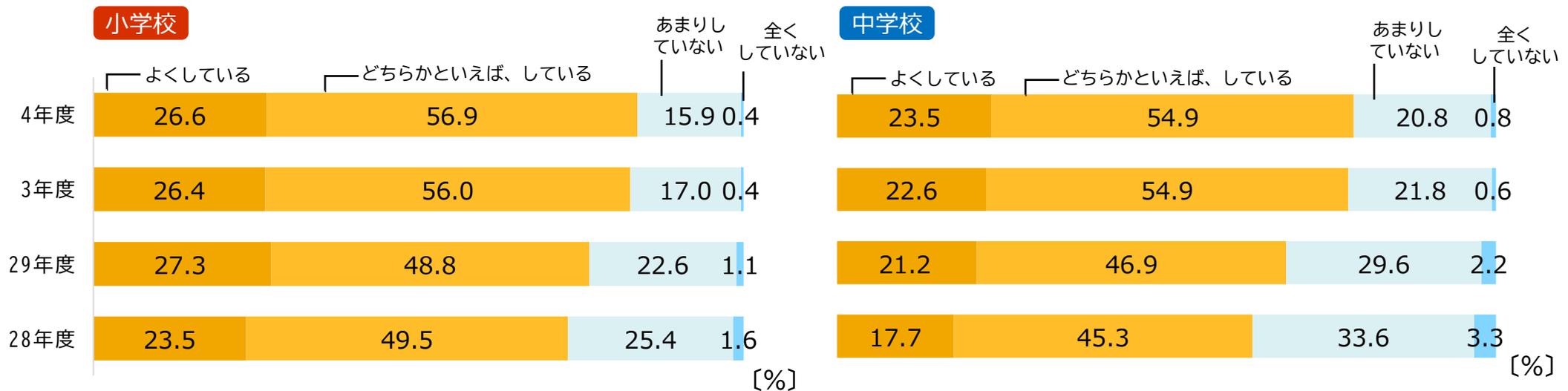


令和4年度全国学力・学習状況調査 学校質問紙調査結果より作成

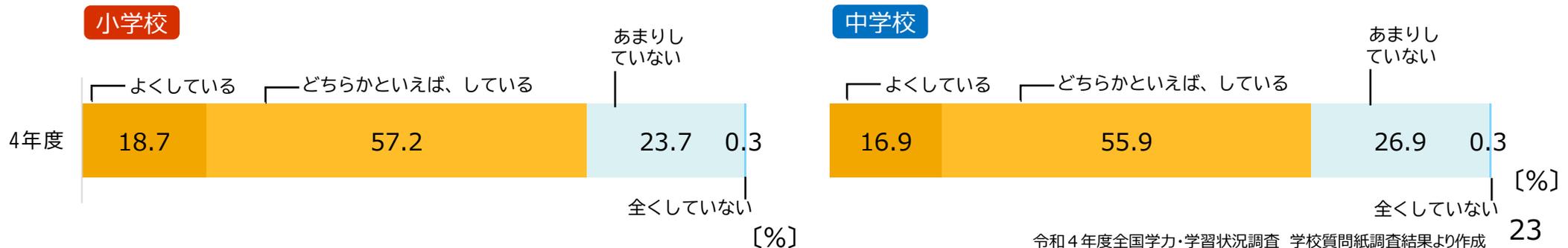
# 学校の状況

教師の学びに対するサポートの状況は学校によって様々。

児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ  
校内研修を行っていますか



個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加を含む）

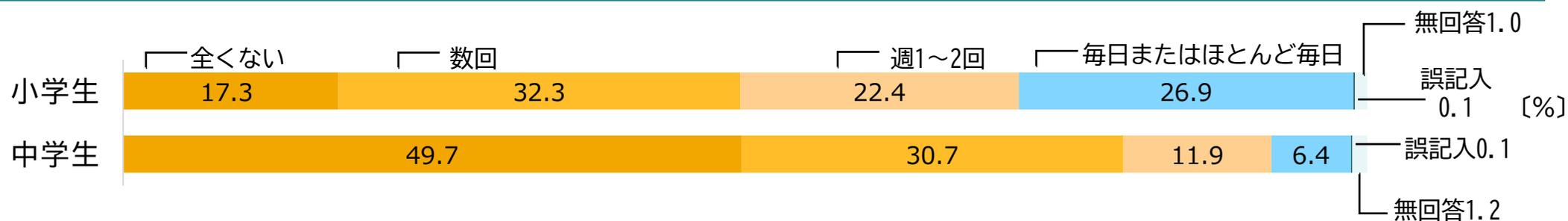


# 家庭の状況

子どもへのサポートの在り方は家庭によって様々。また、小・中によっても差がある。

去年（令和2年）の4～5月ごろ（新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた時期）、あなたは以下のようなことを調査対象のお子さんに対してどのくらいしましたか

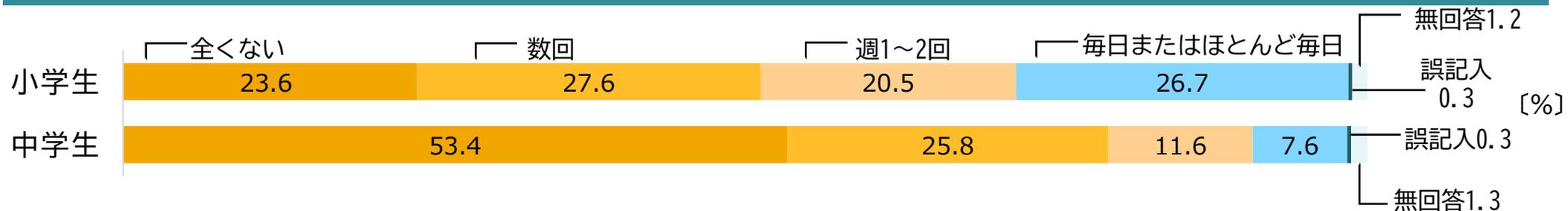
## ① 学校の勉強を手伝った



## ② 何を学んでいるのかを聞いた



## ③ 学習スケジュールを立てるのを手伝った

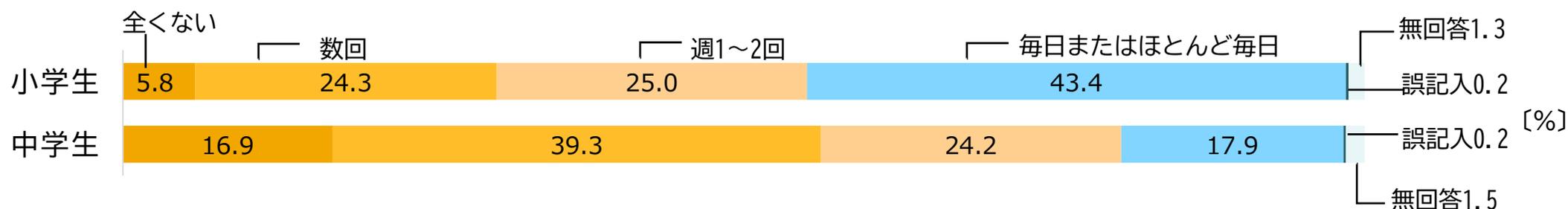


# 家庭の状況

子どもへのサポートの在り方は家庭によって様々。また、小・中によっても差がある。

去年（令和2年）の4～5月ごろ（新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた時期）、あなたは以下のようなことを調査対象のお子さんに対してどのくらいしましたか

## ⑤ 学校の課題ができているかどうか確認した



## ⑥ 新しい学習内容について説明した

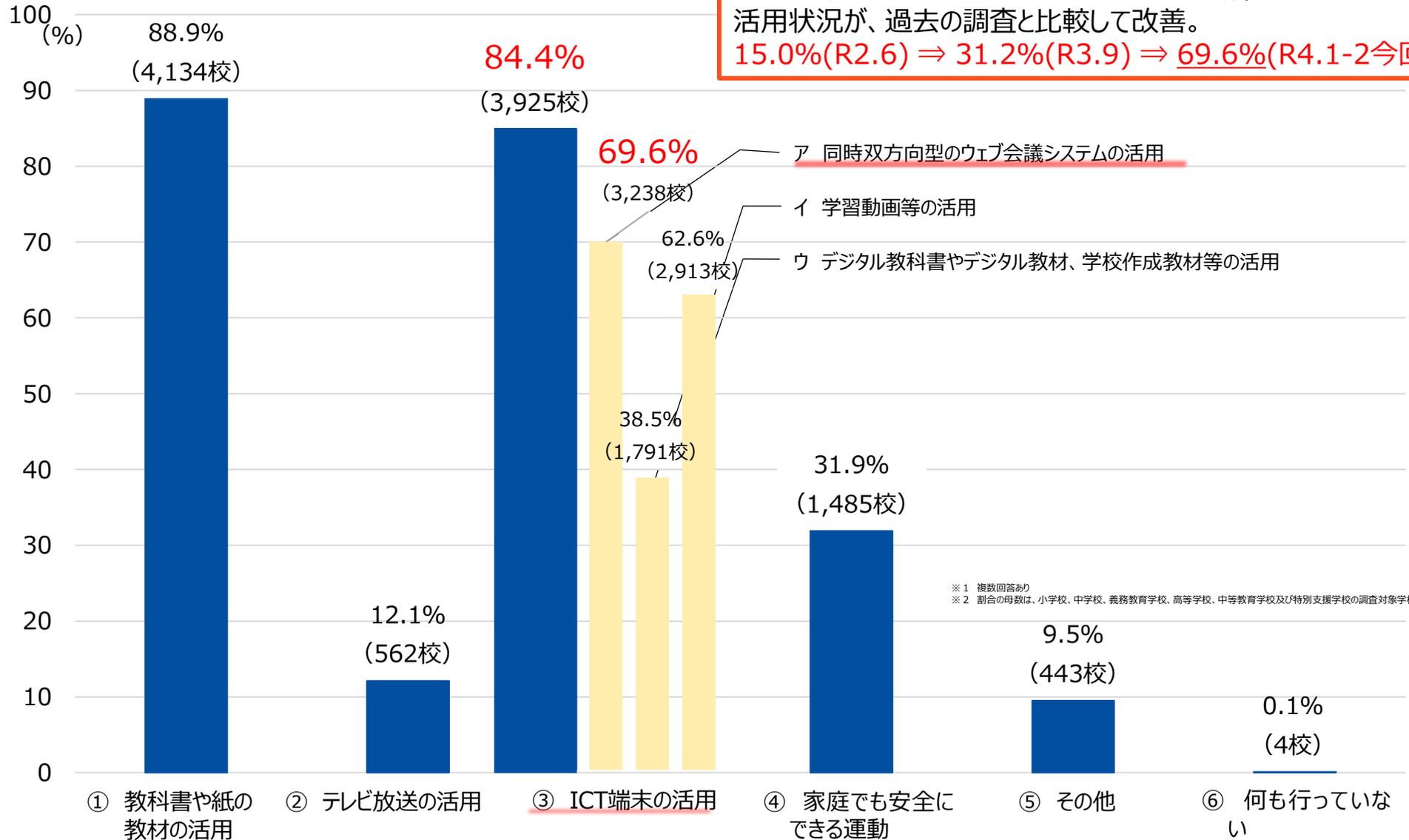


# 臨時休業期間中の学習指導等に関する文部科学省調査（概要）

学校に登校できない状況の中でも学びを止めないため、オンラインを活用した同時双方向の学びが急速に広がった

小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校  
調査対象期間 令和4年1月11日（火）～2月16日（水）

臨時休業期間中の同時双方向型のウェブ会議システムの活用状況が、過去の調査と比較して改善。  
15.0%(R2.6) ⇒ 31.2%(R3.9) ⇒ 69.6%(R4.1-2今回調査)



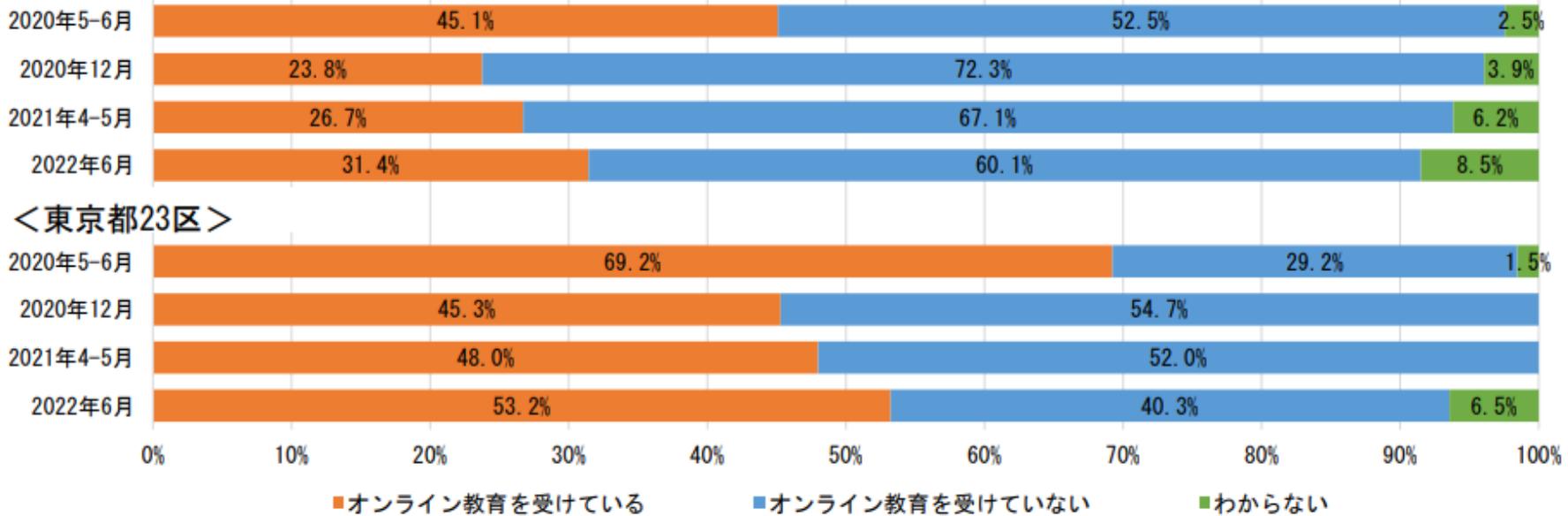
※1 複数回答あり  
※2 割合の母数は、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の調査対象学校数の合計

# オンライン教育に関する小・中学生の保護者に対するアンケート結果

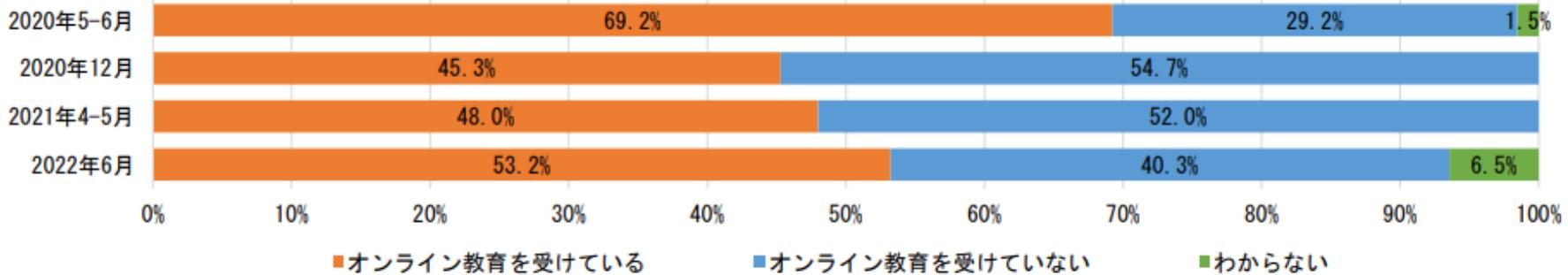
ほとんどの保護者は対面教育中心を希望している

## オンライン教育の実施状況

### <全国>

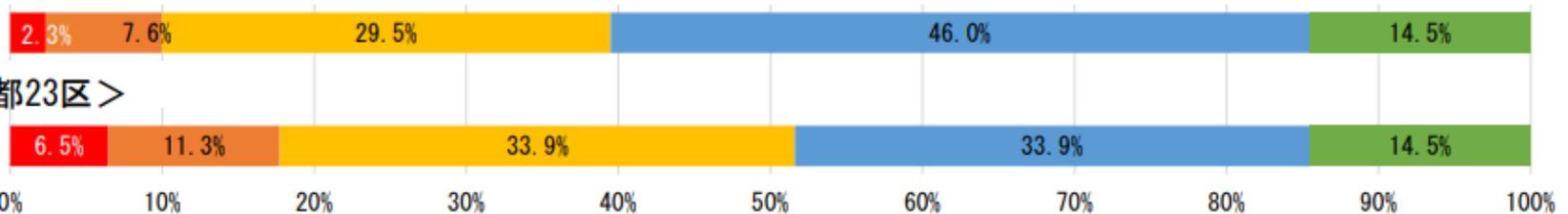


### <東京都23区>

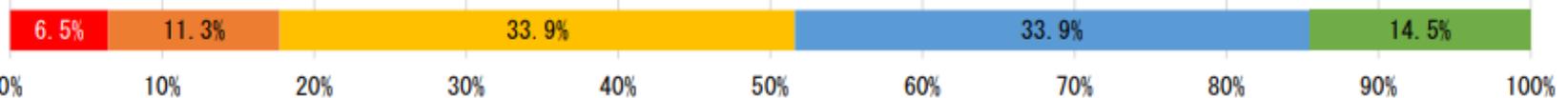


## オンライン教育の利用希望（2022年6月）

### <全国>



### <東京都23区>

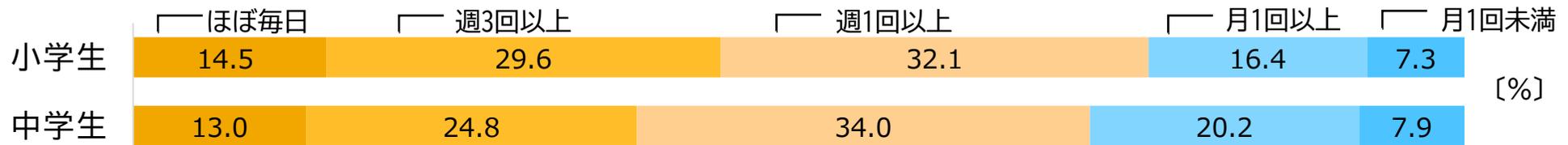


- オンライン教育中心（50%以上）で、対面教育を併用
- 対面教育中心（50%以上）で、オンライン教育を併用
- 基本的に対面教育だが、不定期にオンライン教育を利用
- 完全に対面教育
- わからない

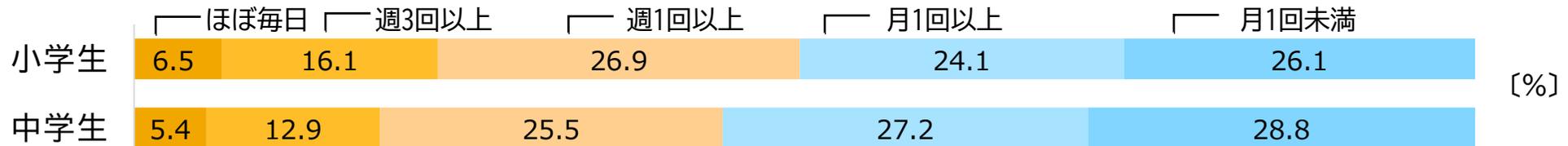
# ICTを活用した学びについて

## 授業でのICTの活用の頻度や使い方は学校によって様々

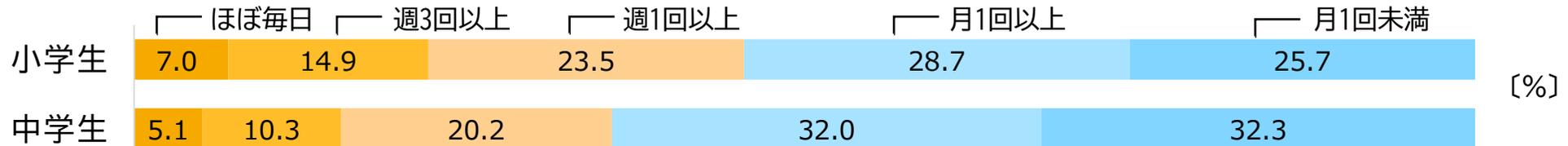
学校で、授業中に自分で調べる場面で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使っていますか（インターネット検索など）



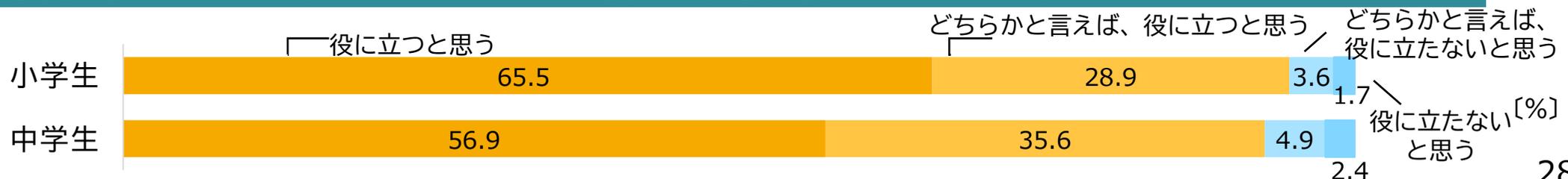
学校で、学級の友達【生徒】と意見を交換する場面で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使っていますか



学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使っていますか



学習の中でP C・タブレットなどのI C T機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか



# 大学でのオンライン授業に対する評価

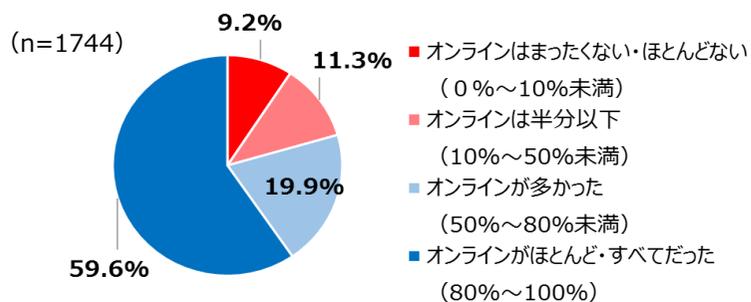
自分の選んだ場所や自分のペースで学習できることが利点の一方、理解のしにくさ、人との関わりがない等が課題

## 1. オンライン授業について

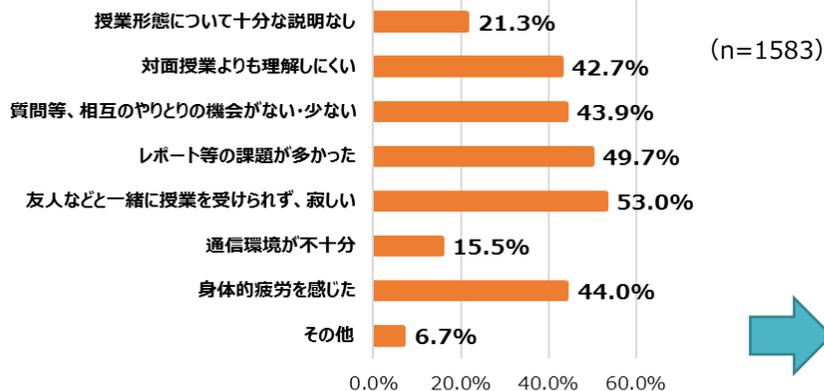
- 令和2年度後期に履修した授業のうち、**オンライン授業がほとんど又はすべてだったと回答した学生は、全体の6割。**
- **全体的な満足度としては、不満を感じる割合より満足を感じる割合の方が多い。**
- オンライン授業について、良かった点として、**自分の選んだ場所で授業を受けられることや、自分のペースで学修できる**ことが多く回答された一方で、悪かった点として、**友人と受けられない、レポート等の課題が多い、質問等双方向のやりとりの機会が少ない、対面授業より理解しにくい**などが多く回答された。

### (1) オンライン授業の割合 (令和2年度後期) ※択一選択

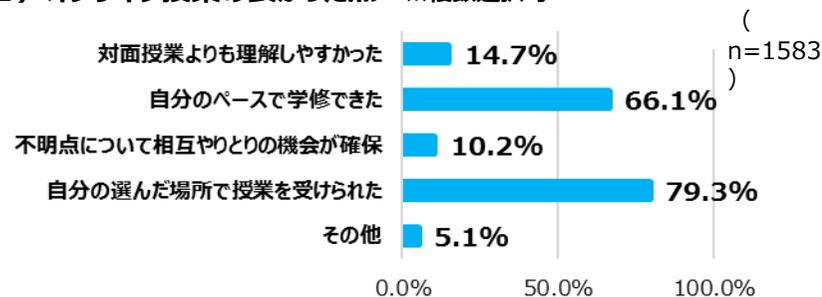
以前実施した、令和2年度後期授業の実施方針における調査では、「ほとんど遠隔」と回答した大学等は約15%であったが、学生の履修した科目から見ると、ほとんどオンラインだった学生は6割にのぼった。



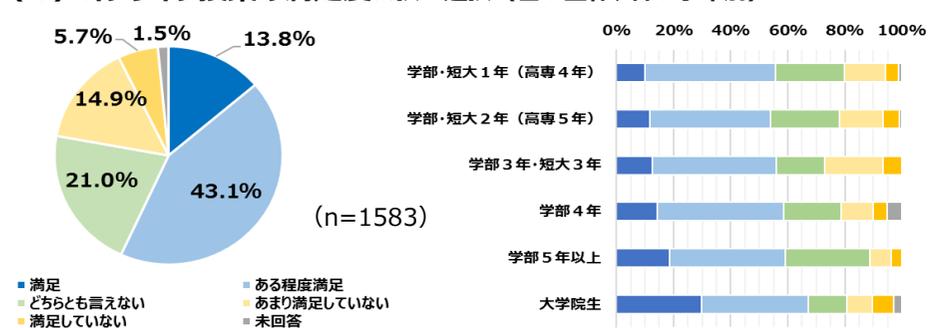
### (3) オンライン授業の悪かった点 ※複数選択可



### (2) オンライン授業の良かった点 ※複数選択可



### (4) オンライン授業の満足度 ※択一選択 (左: 全体、右: 学年別)



その他、回答者の周りの学生の満足度についても質問したところ、「満足」及び「ある程度満足」の合計が37.9%であったのに対し、「あまり満足していない」及び「満足していない」の合計が24.6%。

理解のしにくさや、人との関わりがないことなど教育の質に関わる課題等により不満を持つ学生もおり (満足していない: 5.7%、あまり満足していない: 14.9%)、オンライン授業の実施に当たっては、学生の声を丁寧に聞き、質の向上に努めることが必要。

## 1. 義務教育の意義

### 1) 子供たちに必要な資質・能力と学校が果たす役割

- 令和答申で掲げられた、急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力を前提としつつ、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる子供たちに必要な資質・能力の育成において学校が果たす役割とは何か。
- その際、学校生活全般を通じ、知・徳・体を一体として育成する日本型学校教育ならではの学びの視点を踏まえ、どのような整理が可能か。
  - － 日本型学校教育の「強み」、「弱み」は何か。それは何によって実現されて（生み出されて）いるのか。
  - － 全ての学校において、共通に担保すべき役割とは何か。グラデーションのある学校教育を実現する上での「多様性」や「包摂性」はどう定義され、それを実現するためには何が必要か。
  - － 子供たちが集まる場だからこそ生まれる学びとは何か。学校に「通う」ことの意味は何か。

⋮

### 2) 全ての子供たちの可能性を引き出す学びの実現

- 不登校児童生徒や特別な支援を必要とする子供、特異な才能のある子供を含め、全ての子供たちの可能性を引き出す学びの実現について、どのように考えるべきか。
  - － 全ての子供たちの可能性を引き出す学びを実現するために必要なものは何か。例えば、学校の在り方、授業の在り方、それを支える環境整備、社会の意識や考え方、制度の在り方等の視点から考えたときに、どのように考えるべきか。

⋮